

平成26年度 文化庁委託事業

「日本遺産」調査研究事業 報告書

平成27年3月

ランドブレイン株式会社

目次

I	事業の概要.....	1
1.	事業の趣旨	1
2.	事業の構成	1
3.	事業スケジュール	2
II	文化財のパッケージ化及びストーリー構築等に関する実態調査.....	3
1.	実態調査の概要	3
2.	実態調査の結果	5
III	文化財のパッケージ化及びストーリー構築等における課題の整理.....	69
1.	実態調査結果のまとめ	69
2.	実態調査結果を踏まえた課題の整理	72
IV	まとめ.....	77
V	日本遺産検討委員会の運営.....	83
1.	委員会の趣旨	83
2.	開催概要	83

I 事業の概要

1. 事業の趣旨

文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るため、現在、日本の各地域で文化財をパッケージ化（以下、「文化財群」という。）し、歴史的経緯を踏まえたストーリー上に位置づけ、その情報を国内外に発信する取り組みが進んでいる。また、地域の中には、文化財群によるストーリー形成により、より効果的に国内外への発信が可能となり、地域活性化につなげていける潜在的な資産が存在する。

このような状況を踏まえ、現在行われている取り組みの実態や課題を把握するとともに、有識者等からなる検討委員会での議論を通じて、文化財のパッケージ化及びストーリー構築の在り方や国内外への戦略的発信の推進方策等について研究し、今後の地域活性化方策につなげていくため、「日本遺産」としての事業の創設について検討することを目的に、「日本遺産調査研究事業」を実施する。

2. 事業の構成

（1）文化財のパッケージ化及びストーリー構築等に関する実態調査

既往の調査研究や委員会の委員からの推薦・紹介を踏まえて、文化財のパッケージ化及びストーリー構築、国内外への情報発信等を先進的に実施している事例（10事例程度）を抽出した。抽出にあたっては、単一の市町村内において文化財群のストーリー構築を図っているもの（「地域型」）と市町村横断的に同様のストーリーを有する文化財群をまとめたもの（「シリアル型（ネットワーク型）」）のそれぞれの視点を踏まえて事例を抽出した。

抽出した事例については、現地調査を実施し、文化財群の実態や歴史性、継承の実態と課題、各種戦略（情報発信、人材育成、環境整備等）の実態と課題、推進体制等について、文献調査や関係者へのヒアリングを通じてとりまとめた。

（2）文化財のパッケージ化及びストーリー構築等を図る上での課題研究

（1）の事例調査等を踏まえ、文化財をパッケージ化しストーリー構築を図る上で、ストーリーに関する地域内外での認知や共感の図り方・継承に関する課題、効果的な情報発信、人材育成、普及啓発、環境整備等について課題を整理した。

（3）委員会

日本遺産事業創設について様々な分野の専門的知見から調査研究を行うため、有識者委員（5名）で構成される委員会を3回開催した。

3. 事業スケジュール

	日本遺産検討委員会	調査等
8月	—	<p>○先行実態調査（3地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県高山市：飛騨高山の伝統的街並みと屋台祭礼 ・岡山県総社市（岡山市）：吉備国「吉備路」を巡る歴史 ・愛媛県今治市：日本総鎮守「大山祇神社」と水軍の歴史 <p>↓</p> <p>○日本遺産事業（素案）の検討</p>
9月	<p>第1回委員会（H26.9.1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本遺産」事業について ○先行実態調査の結果報告 ○その他（今後の予定など） 	
10月	—	<p>○実態調査（追加地域：7地域程度）</p> <p>↓</p> <p>○日本遺産事業（案）の検討</p> <p>…第1回委員会及び上記調査を踏まえ具体的な事業内容を検討</p>
11月	—	
12月	<p>第2回委員会（H26.12.1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本遺産」事業の詳細設計 	<p>○実態調査の補足</p> <p>↓</p> <p>○日本遺産事業の検討</p> <p>…第2回委員会及び上記調査を踏まえ、事業要綱等を検討</p>
1月	—	
		○調査事業のとりまとめ
2月	<p>第3回委員会（H27.2.26）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本遺産」事業のまとめ 	
3月	—	

II 文化財のパッケージ化及びストーリー構築等に関する実態調査

1. 実態調査の概要

(1) 実態調査の対象地域

「日本遺産」事業実施に向けた、各地域の取組の実態や課題等を把握するため、以下の地域へ実態調査を行った。

【実態調査実施地域一覧】

No.	市町村名	地域・テーマ	現地調査実施日
1	岡山県総社市	かつての吉備国の中心。多くの遺跡がのこる「吉備路」を巡る地域	平成26年8月25日
2	愛媛県今治市	「国宝の島」とうたわれる瀬戸内海の島「大三島」	平成26年8月25日
3	岐阜県高山市	飛騨高山の伝統的な街並みと屋台祭礼等が、現在まで受け継がれている城下町。	平成26年8月28日
4	岩手県遠野市	遠野の地を舞台に様々な妖怪が登場する「遠野物語」と地域に根付いた「遠野遺産」	平成26年11月5日
5	福井県若狭町、小浜市	厳しい冬も過酷な峠を越えてサバが運ばれた歴史の道「鯖海道」	平成26年11月12日
6	三重県明和町	都を遠く離れ、伊勢神宮に仕えた皇女が住まう幻の宮「斎宮」	平成26年11月12日
7	奈良県高取町	飛鳥時代の「大和の薬売り」から現代の「製薬産業」まで、薬と歩んだ歴史が残る町	平成26年11月13日
8	奈良県橿原市、明日香村	飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群	平成26年11月14日
9	岡山県備前市	日本最古の庶民教育学校「閑谷学校」	平成26年11月14日
10	熊本県球磨地域	相良氏700年の歴史に由来する数々の文化遺産と最高の鉄道技術を駆使した肥薩線	平成26年11月14日

(2) 調査方法

①文献調査

調査対象地域に関する既往文献を踏まえて、地勢や人口等に関する「地域の概要」、「地域の歴史・文化財等の概要」について整理した。

②ヒアリング調査

調査対象地域の自治体職員を中心に、以下の調査項目をもとにヒアリング調査を実施した。

【ヒアリング調査項目】

1. グループिंगされている文化財群の所在、実態等について

- グループिंगされている文化財群の名称・文化財の種類・指定等の有無・所有者・管理団体・文化財の概要について（名称、種類、指定・登録等状況、所有者、管理団体、概要）

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリー（歴史的経緯）について

- 関連する文化財群を結びつけるストーリー（歴史的経緯）について
- ストーリー（歴史的経緯）定着に係るエピソードについて、また、これらストーリーが、地域住民にどの程度ストーリー（歴史的経緯）が定着しているか、住民の気持ちの変化（誇りの醸成など）について

3. 文化財群の活用・情報発信等による地域活性化の取組の実態と課題

①情報発信

- 地域、国内外それぞれへの情報発信に関する取組（事業）について
（取組・事業名称、実施主体、情報発信の対象（国内外）、情報発信手段、費用（財源確保）、効果、連携体制・役割分担、成功要因・反省点、今後必要と考えられる支援制度等）

②人材育成・普及啓発・継承事業

- シンポジウム・フォーラム、セミナー、学校の総合学習、副読本、生涯学習、ガイドブック等の取組状況について（取組・事業名称、実施主体、取組内容、費用（財源確保）、効果、連携体制・役割分担、成功要因・反省点、今後必要と考えられる支援制度等）

③環境整備事業

- サイン看板、展示施設等の整備の取組状況について（取組・事業名称、実施主体、取組内容、費用（財源確保）、効果、連携体制・役割分担、成功要因・反省点、今後必要と考えられる支援制度等）

4. その他

- その他、文化財群の保護・活用に関するご意見等

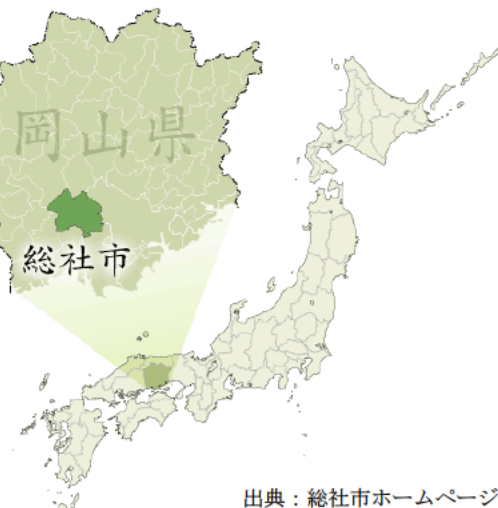
2. 実態調査の結果

(1) 岡山県総社市

『かつての吉備国の中心。多くの遺跡がのこる「吉備路」を巡る地域』

○地域の概要

- ・総社市は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市に隣接している。総面積は212平方kmで、地域の中央を北から南に岡山県の三大河川のひとつ高梁川が貫流している。
- ・市へのアクセスは、岡山空港から車で約25分、鉄道では、岡山駅からJR伯備線で約25分、JR吉備線で約30分。また、岡山自動車道岡山総社インターチェンジから約10分、山陽自動車道倉敷インターチェンジから約15分と、交通利便性が高い。
- ・人口67,799人、世帯数25,593世帯
(平成26年7月末日現在(住民基本台帳))



○地域の歴史・文化財等の概要

- ・総社市は、古い歴史をもつまちで、先土器時代の末期のものと考えられるナイフ形石器が出土しており、人々が豊富な自然の恵みを得て生活を営んでいたとされている。
- ・4世紀から5世紀中頃までは、首長たちが自らの権力を誇示するため、巨大な古墳を築造。三須にある作山古墳(全長286m)は全国第9位の前方後円墳である。築造された5世紀当時において、吉備で絶大な権力をもっていた人物のものであると思われる。
- ・大化の改新以降、備中の国府が金井戸付近(推定)に置かれ、備中国分寺や国分尼寺も建ち、備中国の中心地となる。平安時代末期には、妹尾兼康が十二箇郷用水路を改修。この用水は、今日も総社市や近隣のまちの田畑を潤している。
- ・古くから総社の街は総社宮の門前町から発達していったと考えられている。また、雪舟が修行した寺として有名な宝福寺が、県下でも早くから禅宗寺院となり、布教の中心寺院として栄えた。
- ・戦国時代には守護の力が弱まり、備中土着の有力武士が権力を握り群立。江戸時代になると大名領や旗本領などが入り交じり、5大名2旗本1寺社領に分かれた。
- ・産業としては、平安時代からの鋳物業や、江戸時代に盛んになった備中売薬がある。備中や備前に販路を拡大し、鋳物業が昭和25年ごろ、売薬は昭和35年ごろまで栄えた。
- ・古代から吉備文化の中心地として栄えてきた総社市には、国指定13件、県指定17件、市指定42件の指定文化財があるなど、数多くの文化財が残されている。

○その他地域の情報

- ・姉妹都市：長野県茅野市
- ・雪舟サミットが開催されている。
参加自治体：総社市・芳井町(現井原市)・山口県山口市・島根県益田市・福岡県川崎町・大分県大野町(現豊後大野市)

①文化財のグルーピング

- ・古代からの多くの文化財が残る総社市として、文化財群のグルーピングは行っていないが、時代背景、地域性を踏まえると、以下の4つの文化財群に分けられる。

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○作山古墳（大正10年国史跡に指定。全国第9位、岡山県下第2位の規模を誇る前方後円墳。管理者：総社市）</p> <p>○こうもり塚古墳（昭和43年国史跡に指定。全長19.4mで巨大な石を組み合わせた構造。横穴式石室の中では第4位の規模。）</p> <p>※以下は、岡山市に所在する文化財</p> <p>○造山古墳（大正10年陪塚とされる中小古墳6基とともに国史跡に指定。全国4位の規模を持ち、墳丘に立ち入りできる古墳としては日本最大。管理者：</p>	古墳時代に関するもの
<p>○鬼ノ城（昭和61年国史跡に指定。桃太郎説話や「温羅伝説」の舞台として親しまれている。）、鬼の岩屋、鬼の釜。</p> <p>○備中神楽（昭和54年国無形民俗文化財に指定。演目に温羅と吉備津彦命による温羅伝説をもとにした神楽「吉備津」など含む）</p> <p>※以下は、岡山市に所在する文化財</p> <p>○吉備津神社（矢置岩、御釜殿）</p> <p>○吉備津彦神社</p> <p>○その他、吉備の中山、楯築遺跡、鯉喰神社、赤浜、血吹川など、吉備津彦と温羅の伝説の舞台となった遺跡</p>	桃太郎伝説のモデルとされる吉備津彦命と鬼神・温羅の伝説に関するもの
<p>○備中国分寺跡（昭和43年国指定史跡、1336年の福山合戦で焼失したと言われ、江戸期に再建される、管理者：国分寺・岡山県）</p> <p>○備中国分寺五重塔（昭和55年 国指定重要文化財、吉備路のシンボルともいえる県内唯一の五重塔、管理者：国分寺）</p> <p>○備中国分尼寺跡（大正11年国指定史跡、赤松林の中に建物の柱を支えた大きな礎石が当時の栄華を物語る、管理者：岡山県）</p>	奈良時代の備中の国府として栄えた時代に関するもの
<p>○宝福寺三重塔（昭和2年国指定重要文化財、宝福寺は天台宗の寺として創建、鎌倉時代の中頃に臨済宗に改宗され、有力な禅宗寺院として栄える。現在も禅の修行や、秋の紅葉の名所として、多くの人々が訪れるとともに、江戸時代に画聖雪舟が子供のころ修行をし、涙でネズミの絵を描いたという逸話があるなど、雪舟ゆかりの寺として知られている。管理者：宝福寺）</p> <p>○絹本著色地藏菩薩像・絹本著色十王（明治34年国指定絵画）</p>	室町時代に活躍した水墨画家「雪舟」に関するもの
<p>○総社（総社の地名の由来となったといわれる社）</p> <p>※吉備路周辺の文化財</p> <p>○備中高松城（羽柴秀吉の水攻めの舞台）</p> <p>○足守の街並み（旧足守藩の屋敷・商家が残る地区）等</p>	その他多様な文化財（岡山市に所在するものを含む）

<吉備路のマップ>



出典：総社商工会議所WEBサイト『総社市の観光情報（宿泊・グルメ・名所）岡山・倉敷・吉備路』

<桃太郎伝説・温羅伝説に関するパンフレット>



出典：岡山3市を結ぶ歴史ロマン主人公ゆかりの地を訪ねる旅



出典：岡山市

②関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

- ・地域にまるわる文化財は多々あり。その中で、時代として関連づけられるストーリーとしては、以下の4つのストーリーが挙げられる。
 - i) 古墳時代に関するストーリー
 - ii) 桃太郎伝説のモデルとされる吉備津彦命と鬼神・温羅の伝説に関するストーリー
 - iii) 奈良時代の備中の国府として栄えた時代のストーリー
 - iv) 室町時代に活躍した水墨画家「雪舟」に関するストーリー
- ・上記のストーリーのうち、i) から iii) については、時代設定等が近くはあるものの、関連性については強くはない。ただし、それぞれのストーリーが起こった地域が重なるので、「吉備路」として、1つのゾーニングがなされ、情報発信や様々な取組が行われている。
- ・どのストーリーが最も色濃く地域に根差しているというものはない。中でも分かりやすいストーリーとしては、ii) 桃太郎伝説のモデルとされる吉備津彦命と鬼神・温羅の伝説に関するストーリーが挙げられると思うし、こちらについては、物語と物語の舞台となる文化財群を紹介するようなガイドブックなどが多く作成され、一般に配布されている。

- ・ iv) 室町時代に活躍した水墨画家「雪舟」に関するストーリーについては、雪舟サミットが行われていたりするなど、シリアル型のストーリーとしての展開も考えられる。
- ・ 上記のストーリー以外にも、地域には多くの歴史文化がある。近年では、昭和60年に県の指定を受けている無形民俗文化財として、古代より赤米作りが受けつがれている文化財（新本両国司神社の赤米の神饌）が、芸能人が発起人となって、他地域（長崎県対馬市、鹿児島県南種子町）と、赤米を生かした地域づくりの取組に繋がっており、こちらもシリアル型のストーリーとしての展開が考えられる。
- ・ 複数のストーリーがある場合に、どのストーリーを選定するかということが難しい。地域住民、時代によって、住民の気持ちの変化が見られ、ある時期には、地域内で盛り上がったストーリーが現在は活動等が下火になっているといったことも挙げられる。継続的に盛り上げていくための工夫が求められる。（現在、地域で一番盛んなのは、吉備路の周辺にある、今年の大河ドラマでも先日話題になった、“備中高松城水攻めのストーリー”であり、国指定史跡備中高松城跡に関連する文化財として、他の文化財（鬼ノ城からの眺望・武将清水宗治の位牌がまつわれている備中国分寺）とを結び、情報発信を行っている。）
- ・ i) 及び ii) のストーリーは、総社市のみで完結するストーリーでなく、隣接の岡山市との共通のストーリーであり、岡山市内の文化財も多く含まれる。iii) のストーリーと合わせて、「吉備路」として一体的な情報発信（パンフレット、ホームページ等）や取組（サイクリングロード、吉備路マラソン等）が行われている。一方で、連携の必要性は感じているが、文化財サイドとしての連携については、十分には図られていないと思われる。

③－１ 情報発信

- ・ 吉備路という地域に関連するパンフレット等は、各種団体が作成し、観光案内所等で配布をしている。また、各史跡（文化財）に関するパンフレット等も多く存在する。
例）～吉備津彦と温羅～吉備路周遊マップ（岡山市経済局観光コンベンション推進課）
～吉備のくに 総社～吉備路（総社市教育委員会）
総社市観光ガイド～古代吉備王国をうおーク!!～
おかやま☆遺跡探訪 吉備路とその周辺（岡山県古代吉備文化財センター）
～古代七道の大路 山陽道をゆく～吉備路漫遊（総社吉備路商工会）
鬼に出会う。吉備路（吉備路観光連絡協議会）
- ・ 吉備津彦と温羅の伝説については、物語が読み物として作成され、情報発信がされている。
例）～おかやま桃太郎ものがたり～吉備津彦と温羅 ―吉備路ガイドブッカー（岡山市）
桃太郎伝説―新説・温羅伝説
- ・ 総社商工会議所が地域の歴史・文化・観光資源の情報発信を行うホームページ「吉備路ネット」を開設し、古代吉備王国の国有の歴史・文化の発信を、地域をあげて取り組んでいる。

③－２ 人材育成・普及啓発・継承事業

- ・ 個別の文化財等に関してのシンポジウム等を行っている。
- ・ 観光ガイド人材の養成として、『総社観光大学』の取組が行われている。
平成26年は、「古代吉備のロマン学」をテーマに、4日間の集中講義（受講料15,000円）が開催されている。
- ・ 「鬼退治伝説」「桃太郎伝説」、及び「温羅（鬼）伝説」などが、地域に息づいて伝承されている（伝

説を裏付ける遺構の発掘・整備（鬼ノ城）に伴う史跡ガイドや、市民劇団「温羅」、温羅太鼓などの市民による取組が行われている。

③－３ 環境整備

- ・文化財部局としては、観光部署との連携が十分には図られていない。人材不足の点もあれば、文化財保護を行ってきたセクションとして、地域活性化や地域振興、まちづくりの視点を持つことが難しい。
- ・吉備路については、1市で完結するのではなく、隣接する岡山市、倉敷市とも関連するエリアである。現時点では、岡山市等との横の連携も十分に図られていない。
- ・吉備路のエリアを周遊するコースとして、吉備路サイクリングコース（吉備路自転車道）が整備されており、海外向けのガイドブック（ウェブサイト）でも、サイクリングコースによる周遊などが紹介されており、人気は高い。
- ・また、2009年から毎年開催されているそうじゃ吉備路マラソンでは、吉備路の史跡を巡る形でコースが作られていることから人気を呼び、2012年の開催では15,000人超の参加者が集まるなど、“吉備路”の認知度は比較的高いといえる。

④その他

- ・文化財部署発案による日本遺産事業への提案は現時点では難しい。（人材として手一杯な点、専門職が多く、文化財をグルーピングしての活用という考え方がなかなか持てない。）
- ・住民サイドのまちづくり（観光振興、地域アイデンティティの醸成）との連動した取組としていくことの重要性。
- ・首長部局、企画・まちづくり（観光）サイドからの動き、単一市町村の枠組みではなく、広域的な文化財のグルーピングとストーリー化という考え方も必要である。

(2) 愛媛県今治市

『「国宝の島」とうたわれる瀬戸内海の島「大三島」』

○地域の概要

- ・今治市は、愛媛県の北東部に位置し、瀬戸内海のほぼ中央部に突出した高縄半島の東半分を占める陸地部と、芸予諸島の南半分の島しょ部からなり、緑豊かな山間地域を背景に、中心市街地の位置する平野部から多島美を誇る青い海原まで、変化に富んだ地勢となっている。
- ・市へのアクセスは、車で松山空港から約1時間、福山駅から約1時間10分、鉄道では松山駅から約40分（特急利用）、バスでは福山駅から約1時間30分となっている。
- ・人口166,645人、世帯数75,458世帯（平成26年7月末日現在（住民基本台帳））



出典：今治市ホームページ

○地域の歴史・文化財等の概要

【今治市の主な歴史】

- ・今治地方は、古くから政治、経済、文化の中心地であり、中世には村上氏などの伊予水軍が台頭し、戦国の動向に大きな影響を与えた。
- ・慶長5年、藤堂高虎が20万3千石の領主としてこの地に入り、今治城と城下町を築いて都市としての原型をつくり、その後、松平（久松）氏の所領となり、明治2年の版籍奉還まで治めた。
- ・明治22年、市町村制の施行により陸地部の中心が今治町となり、大正9年、日吉村と合併して今治市が誕生した。その直後より港湾の整備を進め、四国初の開港場となった。
- ・昭和に入ってから、周辺町村との合併、編入を経て、港を中心とした商業都市として、また、タオル、縫製、造船などが基幹産業として発展をとげ、平成11年には瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道）が開通し、中四国の交流、流通の拠点となった。

【大山祇神社と水軍の歴史】

- ・「伊予国風土記」には、大山積神は百済国からやって来たと記されている。これは大三島が、朝鮮半島にも通ずる海上交通の要衝に位置していたことを意味している。
- ・また軍事の要衝としては、平安時代に大三島の河野氏の水軍が西瀬戸の藤原純友の乱で活躍した。
- ・南北朝時代から戦国時代に至ると、大三島を囲む海域では、三島村上氏とよばれる人々が活躍した。彼らは能島、来島、因島を本拠とし、それぞれ能島村上、来島村上、因島村上氏を名乗り、海の武士団＝水軍として縦横に瀬戸内の海路を支配し、周辺海域の島に海城を築いた。
- ・これら瀬戸内水軍の将たちが三島大明神に寄せた深い崇敬は、大山祇神社に奉納された無数の甲冑・太刀の伝世品となっている。
- ・さらに、室町時代から227年間に及び、神への捧げものとして詠い継がれた「法楽連歌」には、連衆として三島村上氏の人々の名が頻繁に登場し、大三島の大山祇神社が瀬戸内水軍の人々を結ぶ信仰上の拠点であり、ときには政治的なネットワークの拠点でもあったことを教えている。

○その他地域の情報

- ・瀬戸内しまのわ2014：広島県及び愛媛県の島しょ部を中心とした瀬戸内海の観光ブランドの認知度向上と、国内外からの観光入り込み客や交流人口の拡大を目的としたイベント

①文化財のグルーピング

- ・日本総鎮守の大山祇神社と周辺の芸予諸島における水軍の歴史的経緯の2つを文化財群として捉える。

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○大山祇神社（拝殿、本殿が重要文化財に指定されている。）</p> <p>○武具甲冑（源頼朝・義経、河野通信、護良親王、後村上天皇などが奉納したと伝えられる武具甲冑類の工芸品。8件の国宝と100件を超える重要文化財が収蔵されている。）</p> <p>○大山祇神社のクスノキ群（境内に大小約100本の楠が群生している。そのうち36本が昭和26年に国の天然記念物に指定されている。）</p> <p>○大三島（名勝に指定されている。）</p>	<p>日本総鎮守である大山祇神社に関するもの</p>
<p>○大山祇神社の武具甲冑（水軍を率いた大祝氏や河野氏、村上氏に由来するものも多数収蔵されている。「村上海軍の娘」鶴姫の胴丸も収蔵されている。）</p> <p>○能島城跡（中世の瀬戸内海を支配した村上三島水軍のひとつ能島村上水軍の城・能島城。国指定史跡）</p> <p>○三島水軍鶴姫まつり（毎年、大三島にゆかりのある人を公募し「鶴姫」役を決定。その鶴姫を先頭に大山祇神社から宮浦港・棧橋まで約80名の武者と共に歴史絵巻のような行列が行進する。）</p> <p>○因島水軍城（※広島県尾道市に所在。全国でも珍しい城型資料館。南北朝時代から室町時代にかけて活躍した村上水軍の武具、遺品、古文書などの歴史資料が展示されている。）</p>	<p>水軍の歴史に関するもの</p>
<p>○別宮大山祇神社</p> <p>○大三島美術館</p> <p>○耕三寺（※広島県尾道市）</p> <p>○向上寺三重塔（※広島県尾道市）</p>	<p>その他多様な文化財、美術館、博物館等 (芸予諸島には多くのミュージアムが所在している。)</p>

<文化財の分布図>



【瀬戸内水軍の歴史・文化関連施設等分布】

②関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

【文献に基づくストーリー】

- 大きく2つのストーリーがある。1つは、古事記や日本書紀、伊予国風土記に示される大山積神に由来する大山祇神社の歴史、もう1つは、平安時代から始まる芸予海域の水軍の歴史である。
- 伊予の豪族であり瀬戸内の水軍として活躍した河野氏が大山積神を氏神として崇敬したことから水軍守護の信仰が広まったことで、2つの歴史的経緯は接点を持っている。
- このことから、大山祇神社を拠点とする水軍文化のストーリー（歴史的経緯）は、日本遺産の考え方に類似すると考えられる。

【ヒアリング結果】

- 水軍の歴史は、今治市に限ったものではなく瀬戸内海全般に広く発展していた。また、それぞれの地域によって水軍の当主は異なる。
- 歴史的に、豊臣政権によって瀬戸内の水軍が再編され、豊臣系列の当主は中央へ移ったことから、現在では水軍の血筋はそれほど残ってはいないのではないか。感覚としても、市民の中に水軍の精神が残っているという印象はない。
- 大山祇神社と水軍が歴史的に密接な関係を持っているという認識は持っていなかった。

③-1 情報発信

【ヒアリング結果】

- 市の文化振興課としては、水軍の歴史や文化の情報をパッケージとして捉えて積極的に外に発信してはいないが、市営の水軍博物館における調査研究は粛々と進められており、定期的に企画展や講演会などを実施している。大山祇神社については、特に市の関与はない。

- 「瀬戸内しまのわ2014」や「村上海賊の娘」などの反響により、文化振興課の関与しないところで観光サイドからの情報発信は積極的に行われている。観光パンフレットでの紹介、ツアーメニュー・イベント開催に伴う旅行会社によるPRなど。（例：鶴姫祭り、しまなみ歌舞伎、瀬戸内水軍まつり（@因島）等）



観光スポットの一つとして紹介されている

- 文化振興課としては、今後も粛々と水軍に関する調査研究を進めるとともに、定期的にその成果を発表する機会を設けていく所存であるが、水軍に関連する文化財をパッケージ化し、ストーリー（歴史的経緯）を踏まえた戦略的な情報発信を行う予定はない。

【海外のサイト】

- 「Lonely Planet」や「The Japan Times」、「Japan Travel Map Your Journeys」などの記事において、水軍城や水軍博物館、大山祇神社が紹介されている。

【観光客の実態】

- 最近の水軍ブームもあり、村上水軍博物館の来館者は増えているだろう。一方、大山祇神社はブームに関係なく、安定的に参拝者が訪れている。
- また、外的要因として、「瀬戸内しまのわ2014」によって観光プロモーションが行われており、その影響も相まって全体的に観光客は増えている。

③-2 人材育成・普及啓発・継承事業

- 旧宮窪町にある市営の村上水軍博物館では、水軍の歴史・文化に関する調査研究を行っており、企画展などの節目に合わせて年に3～4回程度講演会を開催している。来場者は地元と外から来る方々が半々程度。
- 小学校の課外学習の受入れや出前授業も行われている。
- また、大山祇神社に由来する祭事・行事として、産須奈大祭・神興渡御・一人角力・技穂祭があり、伝承としての鶴姫伝説・能因法師伝説も伝えられている。

③-3 環境整備

【ヒアリング結果】

- 水軍については、旧宮窪町にある村上水軍博物館（平成16年開設）が中心施設となる。大山祇神社は市が簡単に関与できるものではない。
- 今治市に限らず近隣の都道府県市町村にも水軍関連の文化施設はあるため、それらとどのような関係を築いていくかについては、現段階では考えられていない。
- 文化振興課としては、村上水軍博物館を通じて今後も水軍に関する調査研究を随時進めていくとともに、講演会の開催や学校教育に活かしていく予定である。

【関連する観光メニュー】

- 来島海峡急流観潮船：日本三大潮流の一つである来島海峡の急流を間近に体験する観光船。クルージングの途中で、村上水軍の歴史や由来する史跡（階段跡など）のガイドもある。（民間商品）



渦潮に接近する観潮船

出典：WEBサイト『今治市サイクリング terminals 「サンライズ 糸山」』

④その他

- 文化財を使ったまちづくりという意味では、これまで自分達（文化振興課）ができる範囲の取り組みを行ってきた。基本的に教育施設という捉え方をしているため、今後も地域の歴史・文化をしっかりと伝承していくことが重要であると考えている。
- 水軍の歴史・文化は瀬戸内海の広範囲に至るものであるため、県境、市町村界を越えてそれらをどのように捉えていくかということが難しく感じられるが、今治市にあってはまず市内のコンセンサスを図ることが必要となる。
- 平成17年度に市町村合併を行っており、村上水軍博物館などの施設は旧町のものである。

(3) 岐阜県高山市

『飛騨高山の伝統的な街並みと屋台祭礼等が、現在まで受け継がれている城下町』

○地域の概要

- ・高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、白川村、そして、長野県、富山県、福井県、石川県と隣接している。
- ・東西約81 km南北約55 kmあり、面積2177.67 km²の日本一大きな市（東京都に匹敵する面積）
- ・北東部は槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連山などの飛騨山脈（北アルプス）を擁し、中央部では宮川が南から北に流れ、南部では飛騨川が北から南へ流れる。森林率は92.1%と山間部が多く、かつては飛騨という匠と木工技術集団を生み出した地域である。
- ・市の中心部へのアクセスは、鉄道利用で、名古屋から特急で約2時間20分。中部縦貫自動車道の高山ICの開通により、車・高速バス利用が増加している。
- ・人口92,747人、世帯数32,213世帯（平成22年度国勢調査）で、岐阜県内で6番目に大きい市。



出典：WEBサイト『高山市観光情報』

○地域の歴史・文化財等の概要

- ・飛騨高山は、東、西、南を3000m級の山脈に囲まれ、ほとんどが山林で、豊かな山林資源に恵まれ、縄文時代より木材の運搬、加工に優れた技術が発達、その技術の顕在化は広く中央の知るところになった。7世紀には都の造営に飛騨工を送り出し、毎年100人余の飛騨匠が奈良の都等に徴用され、その技術と働きが評価された。後には、飛騨匠伝説を生み出し、全国に飛騨匠が造った建物の伝承が分布し、近世木匠の誉れとなっている。
- ・戦国時代には土豪たちが入り乱れ、最後には三木自綱がほぼ飛騨を統一した。天正13年(1585)、秀吉の命を受けて、越前大野城主であった金森長近が飛騨に攻め入り、三木氏は滅んだ。
- ・金森氏は、天正14年(1586)に飛騨国主となり、天正16年(1588)から城下町形成に力を注いだ。高山は金森氏により飛騨国の中心都市と栄えることになる。城下町高山は天正16年から形成された近世初期の地方城郭都市であり、安土桃山時代の日本有数の優れた機能をもった城下町であった。
- ・金森長近は、城郭を平地からの高さ100mの山地に設け、城郭周囲の高台を武家屋敷で囲み、城の東方にある尾根裾に寺院群を設けた。また、一段低い場所には商人町を設け、東西南北の街道を引き込んで経済力を高め、町人経済の発展によって藩経済の底支えと町人自らの統制にあたらせている。
- ・元禄5年(1692)、幕府は金森氏6代の時、山形県上山に国替えを命じ、金森107年の領国が終了した。以後、幕府直轄地時代となり、幕府から代官が赴任し、城と武家屋敷は取り払われた。江戸から赴任した代官、後、郡代たちは武家のたしなみから発する学問、文化を地元富裕層に定着させ、上品上質の文化を高山に残した。幕府直轄地となって、武家屋敷と高山城は破却されたが、東山寺院群と武家屋敷の一部、下屋敷（高山陣屋）、商人町はそのまま残って現在に至る。さらに、城下町の地割や道路も400年前のまま開発されずにほとんど残っており、歴史的街区を温存している。
- ・商人町は400年前に形成され、数度の大火で焼失しながらも同じ建物形態で再建を繰り返してきた。現在、商人町は国選定重要伝統的建造物群保存地区として2箇所、11haが選定され、伝統的建造物

等は386件に及ぶ。住民が住みながら歴史的町並みを保存していて、住民の町並み保存に対する意識は高いものがある。伝建地区内には世界的な建築家の評価も高い国重文の日下部家や吉島家があり、他の伝統的町家も含めて、デザインと質の高さは群を抜く。建築材は小屋組みがマツ材である外、柱などは全てヒノキ材等の良材を駆使し、優れた大工技術をもって建てられているため、国内の木工職人は元より、世界の職人の良い手本になっている。

- ・高山祭の祭礼行事は金森氏入国後に始まり、その後高山祭の屋台の祖形が江戸から伝わった。外装を中心とした改修を数回経て、今日の絢爛豪華な屋台となっている。本家の江戸では享保の儉約令などで屋台が無くなったが、江戸の屋台が連綿と外形を変えながらも残っているのは日本民俗文化の発展的継承の経緯遺構として稀有である。富裕商人層は居宅には金をかけることが許されず、もっぱら学問、文化に力を入れるようになった。中でも、各組が持つ屋台には相当の金を使い、しかも屋台の主題を大事にして吉兆と瑞祥を基本に屋台の構造本体及び各部文様文化を大成させた。
- ・屋台組組織は江戸時代における一つの町内会組織であり、江戸時代は町内会の事を「組」としていた。それで、屋台組区域の住民を「組内（くみうち）」と言い、それは強い絆の文化的集団になっている。組内は助け合い、共同作業、精神交流など生活の中に大きな比重を占め、屋台祭礼の場としての文化的空間を創り出している。屋台を守る人たち（組内）は江戸時代から屋台に強い愛着を持ち続けており、それは町並み保存の原動力にもなっていて、日常の生活の場である「伝統的町並み」と、ハレの場である「祭礼の場」とを強力に結びつけた文化的景観をつくり出している。
- ・祭礼日を頂点として、日常生活から屋台が通るのにふさわしい町並みを保存する考えが強く、屋台の保存組織がそのまま町並保存会組織へと同一化している。日常生活において伝統的な町並みを維持しながらも、祭礼日が近づくにしたがって精神的に高まり、また町並みの補修、清掃にも力が入って文化的景観の高まりを見せる。

○その他地域の情報

- ・世界遺産暫定一覧表候補：飛騨高山の町並みと祭礼の場～伝統的な町並みと屋台祭礼の文化的景観～
- ・高山市歴史文化基本構想（H22.3策定）
- ・高山市歴史的風致維持向上計画（H21.1認定、H26.3変更）
- ・観光客の状況（平成24年観光統計（高山市商工観光部観光課）より）

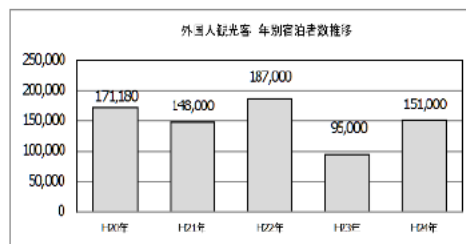
(千人)

	H23年	H23年構成比	H24年	H24年構成比	H24年/H23年
宿泊客数	1,840	52.86%	1,961	52.03%	106.58%
日帰り客	1,641	47.14%	1,808	47.97%	110.18%
計	3,481	100.00%	3,769	100.00%	108.27%

※外国人を含む延べ宿泊者数

(人)

	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H24年/H23年
アジア	101,812	72,190	100,687	63,825	103,260	161.79%
北米	18,487	15,380	16,004	7,370	11,264	152.84%
中南米	2,554	3,560	3,619	1,673	2,342	139.82%
ヨーロッパ	37,440	45,220	52,521	14,630	23,980	163.91%
オセアニア	10,841	10,560	13,733	7,420	9,692	130.62%
アフリカ	46	1,090	436	80	462	577.50%
計	171,180	148,000	187,000	95,000	151,000	158.95%

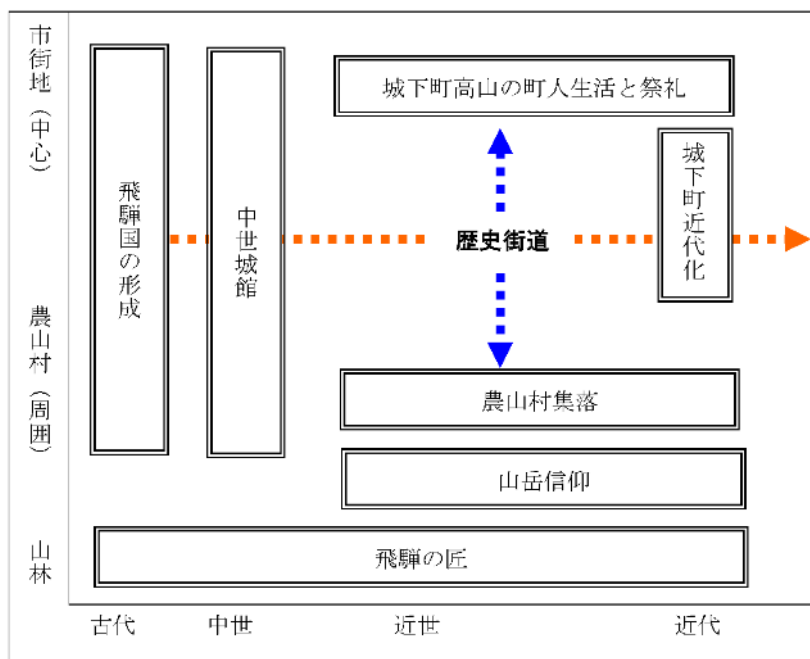


①文化財のグルーピング

- ・高山市の指定文化財は、市町村合併により、国指定・選定41件、県指定117件、市指定780件の合計938件にのぼる。地域別にみると、市街地（中心地）には、近世城下町の文化財を中心に212件が指定されている。また、「歴史文化基本構想」に先立つ調査では、これまで調査がされてこなかった農山村地域での聞き取りと現地調査等から、指定文化財を含め3,000件を超える文化財が確認されている。
- ・「歴史文化基本構想」では、地域の範囲や歴史的連続性など共通の事項（テーマ）で文化財及び周辺環境を含めて評価し、一体となって歴史・文化を価値づけることができる文化財等を関連文化財群として、以下の8つのテーマに分類している。

文化財群		設定の理由	構成要素
1	城下町高山の町人生活と祭礼	近世以降の飛騨地域における文化・経済・行政の中心地として、周囲の農山村にも街道を通じて大きな影響を与えた範囲である。 また、伝統文化に対する保存意識の高さにより、祭礼など民俗風習などが現代に継承されており、さらにはこれを地域資源として活用を図ってきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・祭礼を中心とした地域コミュニティ ・城下町都市構造の継承 ・町人文化の継承
2	歴史街道	山地が多くを占める飛騨では、街道の道筋は現代も概ね変わっていない。このため過去から現在においても、伝播の媒体としての役割を保っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化伝導の媒体としての街道 ・現代に続く交流の歴史
3	農山村集落	山地に点在する農山村集落は、街道を通じ城下町や圏域外の文化を吸収し、飛騨圏域として類似の部分を持ちながら、独自の文化を保持している。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史街道と集落の形成 ・地域の環境と城下町からの伝播の混交
4	飛騨国の形成	古代に「飛騨国」が形成され、現在の高山市を中心とする飛騨地方の一体的な文化が形成される原点となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳群と国分寺など古代から継承されてきた文化財
5	中世城館	中世は、各地で豪族が群雄割拠したため、一体的な行政が行われなかった時代であり、現在でも地域の文化的な特性に特徴を残している。	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の支配分布を表す城館の配置と史跡
6	山岳信仰	飛騨山脈、御岳、白山山地などに囲まれた地理的環境により、山岳信仰は民俗文化に大きな役割を果たした。山を対象にした風習が今も各地域に残っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・石仏など宗教登山遺構 ・円空仏の分布と山岳信仰関連文化財
7	飛騨の匠	飛騨の匠の記録など、木と関わり、木を活かした生活文化を継承してきた。これは、江戸期における飛騨春慶などの木工産業から現代の家具産業、伝統的な木造建築技術につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・巨樹などの天然記念物 ・位山道など都造営と木工技術の関連文化財 ・祭屋台や建造物の技術、意匠に見られる技術の伝承 ・飛騨春慶などの伝統工芸と飛騨家具への継承
8	城下町高山の近代化	明治以降の近代化の流れと伝統的な文化が、都市の中で空間を分けて継承されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化遺産建造物群 ・産業近代化遺産

< 関連文化財群の関係図 >



出典：高山市『高山市歴史文化基本構想』

< 「城下町高山の町人生活と祭礼」の概要 >



宵祭りと町並み



御料車行列と町人地町並み



火消用具のコレクション

出典：高山市『高山市歴史文化基本構想』

高山市の歴史文化資源として重要なものに、金森氏を起点とする城下町高山に関するものがあり、三町伝統的建造物群保存地区などをはじめとして、1970年代から継続的に保存の努力が積み重ねられている。また、こうした歴史的町並みの周辺にも、かつて武家地であった空町、寺町として配された東山寺院群、自然の堀として利用された江名子川など城下町を形成する様々な要素がパッチワークのように計画的に配されており、こうした周辺要素が総合的に保全活用される必要がある。

1. 城下町の構成に忠実な都市構造の継承

城下町は、城郭を中心に、武家地・町人地・寺社地・堀等が総合的に計画されている。

2. 祭礼を中心とした町人文化と地域コミュニティ

町並みと同様に高山城下町に根付いているのが、高山祭を中心とした祭礼とこれを基にしたコミュニティである。高山祭では、祭礼とともに地域（屋台組）ごとに豪華絢爛な屋台が継承され、これを収納する屋台蔵など、屋台を中心とした地域文化も継承されている。こうした文化は、城下町にとどまらず、周辺地域に伝播している。

3. 町人文化の現代的「継承」

全体の調和を重んじる「相場」文化など、高山城下町に醸成された有形・無形の町人文化も貴重な歴史文化である。しかも、こうした文化が、遺産ではなく自然と現代に継承されている点が高山の文化の特徴である。

<「城下町高山の町人生活と祭礼」の構成要素>

①城下町の構成に忠実な都市構造の継承

城下町を構成する多様な要素とその関係性を継承する

- 1) 高山城と高山陣屋
- 2) 武家地と空町
- 3) 町人地と町並み
- 4) 東山寺院群（寺町）
- 5) 川沿いに展開する高級住宅地
- 6) 城下町周辺の眺望とまちかど
- 7) 秋葉講と防火システム

主な構成要素

1) 政治の中心地
高山陣屋跡【国・史】、高山城跡【県・史】、旧高山町役場【市・建】
2) 町人地と町人文化
三町伝建地区【国・伝建】、下二之町大新町伝建地区【国・伝建】等
3) 空町と武家地
角正【市・建】・えび坂【未】・煙草館【未】ほか
4) 江名子川
5) 東山寺院群
雲龍寺鐘楼門【市・建】・宗猷寺本堂【市・建】・同慶園【市・名】他
6) まちかどと眺望
東山風致地区・城山風致地区他
7) 防火システム
各地の秋葉神社【有・未ほか】
火消用具（秋葉講【市・有民】・神明講【市・有民】・東講【市・有民】）
松垣（吉島家）【国・建】、卯立【未】ほか

②高山祭を中心とした城下町の祭礼文化

城下町で展開した祭礼を有形・無形の融合から見る

- 1) 高山祭と祭礼空間（寺社）
- 2) 屋台と屋台空間（屋台・屋台蔵とその周辺・屋台組・ルート・曳揃え）
- 3) 祭礼行事や芸能
- 4) 町人地に広がる祭礼民俗文化（町並み・飾り・食文化・装束等）
- 5) 飛騨全体への祭礼の波及

1) 高山祭と祭礼空間
高山祭【国・無民ほか】、日枝神社・桜山八幡宮【市・建ほか】
高山山上祭礼行列絵巻【未】
祭礼の行事（獅子舞・鶏闘楽・御神幸・御巡幸）【国・無民】
2) 高山祭の屋台行事【国・無民ほか】
屋台【国・有民】、屋台蔵【伝他】、屋台組【未】
屋台修復技術（祭屋台等製作修理技術者会）
高山屋台保存会関係資料
曳揃え（安川通り・表参道・神明町通り・さんまち通り）
からくり奉納（高山陣屋前・桜山八幡宮境内）
3) 町人地の祭礼民俗文化
当番飾り【未】、提灯・幕【未】、袴・白丁・屋台曳衣装
4) 祭礼の波及
神楽台と屋台蔵（飛騨総社他）
神楽台と屋台蔵【立岩・甲・万石他】

③町人文化の「継承」

自然と現代に継承されている高山の町人文化

- 1) 町家空間の継承；鉄砲町
- 2) 町人芸術文化の継承（飾り物、宗和流本膳料理）
- 3) 町人の食文化（めでた・宴）

1) 町家の継承	鉄砲町の町並み【未】
2) 町人芸術文化の継承	飾り物【未】・宗和流本膳料理
3) 町人の食文化	めでた【未】

出典：WEBサイト『高山市観光情報』

②関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

- ・高山市では、地域の範囲（市街地・農山村・山村）や、歴史的連続性（古代・中世・近世・近代）を踏まえながら、上述の「歴史文化基本構想」の中で、8つのテーマ（ストーリー）で、文化財のグルーピングを行っている。
- ・「飛騨高山の伝統的な街並みと、高山祭の屋台祭礼」のストーリー（上記でいうと、テーマ1の「城下町高山の町人生活と祭礼」にあつては、400年という年月をかけて、地域内の全ての人に認知され、住民の生活の一部（中心）となっており、普遍的なストーリー（テーマ）であると言え、また、地域内外にインパクトがあり、分かりやすいストーリーであるといえる。
- ・テーマ2の「歴史街道」のようなものは、5街道（①越中街道：ブリ・塩・薬を富山から運ぶルート、②平湯街道：平湯温泉までの山間ルート、③江戸街道：高山線開通まで江戸までの主要街道、④尾張街道：かつての位山街道ともルートが重なる、高山陣屋から岐阜・尾張・関西地方へつながるルート、⑤郡上・白川街道：郡上・白川郷へのみちのり）としてまとめやすく、また、現在の国道や県道に位置することからも分かりやすい。
- ・合併から10年が経つ高山市としては、地域の一体化を目指しており、「地域に埋もれている歴史遺産を掘りおこしていくこと」を来年度からの総合計画（第8次）の中にも位置づける方向であるなど、文化財の保存・活用と、総合計画や教育振興基本計画といった上位計画と関連を持たせている。

③-1 情報発信

- ・高山市に外国人観光客が増えた理由として、ミシュラン（ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン）で、3つ星観光地として選ばれた理由が大きい、それまでも外国人観光客の受入に対する取組を進めてきた。
- ・情報発信については、各部署でホームページの作成・管理を行っている。
文化財の情報発信については、文化財課が担当し、観光部署の情報発信は、観光課が行っている。
なお、外国人への情報発信として、観光課のホームページは、11言語での表記を行うほか、街中案内や高山祭のパンフレット等多言語化に対応している。
- ・海外向けにあっては、「海外戦略室」を設置して、海外向けの情報発信等を行っているほか、フランスや中国に職員の常駐派遣、市長・副市長によるトップセールスなどを積極的に行っている。



散策マップ
9言語

観光パンフレット
6言語



ミシュラングリーンガイド
ジャポンで三つ星掲載

出典：高山市資料『高山市の観光振興について』

③-2 人材育成・普及啓発・継承事業

- ・人材育成にあっては、郷土教育に力を入れており、「飛騨高山を誇りに思う子供たちを育てたい」との多いから、副読本の作成や各学校に出向き出前講座、体験事業などを行っている。
- ・「城下町高山の町人生活と祭礼」については、地域の屋台組組織が町内会として、町並み保存や祭礼行事の維持の取組を通じて、人材育成を図っている。それでも町なか人口の減少に伴って、町並み保存や祭礼行事の担い手不足が課題となってきた。
- ・文化財の保存・活用にあっては、各種保存会等の果たす役割が大きい。
- ・市では官民学連携の取組を推進し、まちづくり等の各種取組を行っている。
- ・おもてなしに関しては、「おもてなし文化振興」として、飛騨高山に伝わるおもてなし文化やお座敷での伝統芸能の専門的知識や技術の修得支援、及び後継者育成支援等によりおもてなし文化の保存と伝承を図っている。（おもてなし文化修得支援事業、おもてなし文化後継者育成事業等）

③-3 環境整備

- ・高山市では、現在の観光客数（平成24年：377万人）+100万人の500万人（内、外国人旅行者は30万人）を目標に、受け入れ環境整備（観光案内所（ビジットジャパン案内所、まちかど観光案内所）、駐車場、休憩所、便益、市内交通手段（巡回バス、レンタサイクル）、サイン・案内板等）を、市の単費や各種補助金を活用しながら進めている。
- ・さらに、平成23年に城下町高山の歴史文化を学ぶことができる展示施設「飛騨高山まちの博物館」をオープンしたのに加え、地域の伝統芸能や伝統工芸を「体感」できる施設の整備を計画、進めている。

- ・文化財部局としては、3～4年前から解説板の多言語化（5言語）に力を入れている。また、市内の公共サインや案内板等にあつては、デザインの統一性は図っていないが、色彩の統一などを図ることで、分かりやすさなどの工夫を行っている。

- ・環境整備は、市単費ほか、補助金等を活用して進めているが、近年は、「ふるさと納税（※）」による寄付金を活用した環境整備もふえている。

※高山市では、「ふるさと納税」による寄付金の活用を、以下の5つ応援メニューに関連した事業に充てる目的化を図っている。

1. 高山祭と古い町並～ふるさと伝統応援～

（飛騨高山の町並みと祭礼を世界文化遺産登録にチャレンジしたい！／古い町並や貴重な文化財を守りたい！／地域に伝わる文化や芸能を残したい！といった取組）

2. 緑豊かな農山村景観～ふるさと原風景応援～

（農山村の原風景を残したい！／豊かな森林と清らかな源流を守りたい！

3. 飛騨牛と匠の技～ふるさとブランド応援～

（安全でおいしい飛騨牛やトマト、ホウレンソウを食べてもらいたい！／飛騨高山ブランドをどんどん全国に広めたい！／飛騨の匠の技を残したい！）

4. 人情あふれる飛騨人のやさしさ～ふるさとふれあい応援～

（誰にもやさしいふるさとにしたい！／ふるさとを担う子どもたちを健やかに育てたい！／安心して暮らせるふるさとを守りたい！／「おもてなしのこころ」で観光客をお迎えしたい！）

5. みんな応援したい～ふるさとおまかせ応援～



飛騨高山観光案内所(デジタルジャパン案内所)
出典：高山市資料『高山市の観光振興について』

③その他

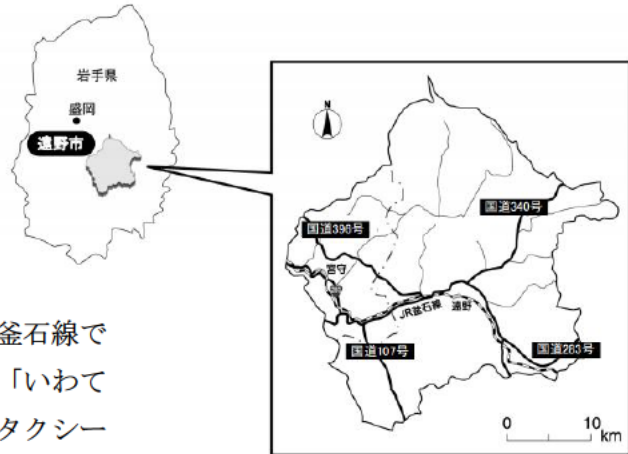
- ・高山祭や古い町並みについては、昔から観光資源として認知されていることから、観光部局や住民（保存会等）との連携が図られている。
- ・「歴史的風致維持向上計画」の策定にあたり、まちづくり部局と連携して取組を推進してきた。また、昨年度の同計画の見直しにあつては、商工観光、農林部局との連携も図りながら進めている。また、天然記念物については、環境政策課との連携を図るなど、他部局との連携は図られている。
- ・広域観光圏を形成する地域でもあり、また、県が管理する文化財等も存在する。そのため、文化財の保存・活用にあつては、県のより積極的な関与・支援がほしい。
- ・本事業に係らず、文化財の指定・選定等に至るまでの計画策定や環境整備等に関しての支援があれば、積極的に本事業を活用した地域活性化を進めようとする地域・自治体も増えるのではないかと。

(4) 岩手県遠野市

『遠野の地を舞台に様々な妖怪が登場する「遠野物語」と地域に根付いた「遠野遺産」』

○地域の概要

- ・遠野市は、岩手県中央部、北上高地の中南部に位置し、四方を山に囲まれている。冬季は放射冷却によりマイナス20度近くまで下がることもあり、豪雪地帯に指定されている。また、岩手県で二番目に高い山、早池峰山（はやちねさん）の一部も市域にある。



- ・市へのアクセスは、東北新幹線新花巻駅から釜石線で1時間、いわて花巻空港から車で1時間15分。「いわて花巻エアポートライナー」という予約制乗合タクシーがあり、遠野まで1時間15分、4110円。

- ・人口29,150人、世帯数10,889世帯（平成26年10月現在（住民基本台帳））

○地域の歴史・文化財等の概要


- ・柳田國男（1875－1962、民俗学者・作家）による説話集『遠野物語』の舞台となった地域である。この地域の出身である佐々木喜善（1886－1933、民俗学者・作家）が口述した民話を、柳田自身がまとめ、編纂したものである。
- ・その内容は天狗、河童、座敷童子など妖怪にまつわるものから山人、マヨヒガ、神隠し、死者などに関する怪談、さらには祀られる神、そして行事など多岐に渡る。その多くは明治時代以降に起きたこととされており、市内の早池峰山、猿ヶ石川などの具体的な地名を織り交ぜて語られる。
- ・国指定文化財4件、国選定文化財1件、国登録文化財7件、県指定文化財15件、市指定文化財117件がある。

○その他地域の情報

- ・東京都武蔵野市、三鷹市、熊本県菊池市、愛知県大府市と姉妹都市協定を結んでいる。
- ・妖怪という共通テーマから、鳥取県境港市、徳島県三好市と共同で「怪フォーラム」を開催している。

1. 文化財のグルーピング

- ・柳田國男の『遠野物語』に由来する文化財群と市が独自に推進している制度「遠野遺産」に由来する文化財群がある。

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>【カッパ淵】</p> <p>かつてカッパが多く住み、人々を驚かせたという伝説が残る場所で、全国唯一のカッパ狛犬で知られる常堅寺の裏手を流れる小川の淵をいう。淵の水辺にはカッパの神を祀った小さな祠が立っている。カッパの神は乳の神であり、乳児のある母が</p>  <p>カッパ淵（撮影：調査員）</p>	<p>遠野物語</p>

母乳の出がよくなるよう祈願すると
よいとされる。

また、他の土地のカッパは青い顔とされるが、遠野のカッパ
の顔は赤い。

・卯子酉様（うねどりさま）

愛宕山のふもとにある恋愛の神
として知られている神社。昔は大
きな淵があり、その淵の主に願を
かけると、男女の縁が結ばれたと
いう。



出典：WEBサイト『遠野時間』

・五百羅漢

江戸時代中期の天明期に刻まれ
た石造群。遠野はしばしば冷害に
よる凶作に見舞われ、多くの被害
者を出した。餓死した犠牲者の霊
を供養するため、数年をかけて花
崗岩に羅漢像が線彫りされた。



出典：WEBサイト『遠野時間』

・デンドラ野

60歳を超え、働き手として機能し
なくなった老人はすべてここへ
追いやるという風習があった。
「蓮台野」が訛って「デンドラ野」
となったという。



デンドラ野（撮影：調査員）

・柏木平の砥森（ともし）神社

享保13年(1728)に建立されたとい
う棟札が残っている。嘉永5
年(1852)の再興棟札、御宮再建
寄付額が残っていることから、
現在の社殿はこれ以降に建立さ
れ、近年修繕されたものである。



出典：WEBサイト『遠野時間』

昔はここからも砥森山に登ったという。この他に下宮守、花
巻市東和町田瀬にも砥森神社があり、砥森山が篤く信仰され
ていたことがわかる。元朝参りは詣でる時間を決め、富くじ
を行うため住民総参加で大賑わい。9月第2日曜日には祭りも
行われ、郷土芸能が奉納される。

遠野遺産

・鱒沢四社・白石神社（兜明神）

万治年間（1658～1660）宮城県の白石地蔵尊を勧請して祀ったといわれる。侍が女神からお告げを受け戦いに勝利したことに感謝し、兜形の石を置き拝んだ。明治の末頃、火柱が立った等の噂が立ち、占



出典：WEBサイト『遠野文化研究センター』

い師に「兜石が拝まれたくてシルマシ（前兆）を見せている」といわれ、大正2年にお堂を建て祀って以来「兜明神」ともいわれる。御利益により、地域で戦争に赴き怪我をした人は一人もいないと言う。6月例祭の宵宮はかがり火焚きがある。鱒沢四社として、地域の拠り所となっている。

・八万神楽

八万神楽は明治維新以前、遠野一郷の法印たちが寄り集まって演じたもので、山伏神楽と呼ばれる神楽。遠野郷八幡宮の役神楽。明治25年に記した『御神楽虎の巻』の写しが存在する。岩



出典：WEBサイト『SL銀河フォトコンテスト』

戸開きを最初に行うのが特徴で、法螺貝を門付けの時に使用するため、法螺貝神社などとも呼ばれた。弟子神楽に飯豊神楽、六角牛神楽がある。戦時中は中断したが、それ以降は継続して伝承している。戦後踊り手不足により途絶えた演目の復活を目指している。昭和60年に保存会を設立。

・野崎神楽

明治中頃に遠野郷八幡宮に奉納されていた山伏達の神楽舞を習得して、伝承したといわれる。山伏神楽系の附馬牛町和野神楽の系統とも言われている。昭和7年に民俗学者本田安次の前で上



出典：WEBサイト『SL銀河フォトコンテスト』

演した記録が残る（『旅と伝説』など）。しばらく活動が停滞していたが、近年は保育園児、小中学生を初めとした地域の若者も積極的に参加し、80歳代の師範が指導して地域活動の中核を担う存在となっており、地域の各種イベントで公演している。

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

○遠野物語

- ・柳田國男の『遠野物語』の舞台となった地域として、天狗、河童、座敷童子などの妖怪にまつわるものから山人、マヨヒガ、神隠し、死者などに関する怪談、さらには祀られる神、そして行事など、各々の物語にまつわる場所が地域に点在しており、観光名所として位置づけられているとともに、市民の精神にも遠野物語が根付いている。
- ・遠野物語の各々の説話そのものがストーリーとして捉えられ、遠野物語を巡るコースが設定されており、カップ淵や五百羅漢など遠野物語ゆかりの地をめぐるバスツアーなど観光面での活用も行われている。

○遠野遺産

- ・これまで遠野の人々が大切にしてきた「たからもの」を、市民と行政とが協力して保護・活用し、次世代の子供たちに伝えていく仕組みとして『遠野遺産認定制度』が実施されている。

(遠野遺産認定対象)

- ① かたちのあるもの (有形遺産)・・・古民家、シンボルになっている建造物、いわれのある場所、歴史的な出来事があった場所、記念碑など
 - ② かたちのないもの (無形遺産)・・・古くから伝わる風習、民俗芸能、伝承、伝統技術、食文化など
 - ③ 自然のもの (自然遺産)・・・地域のシンボルになっている木や滝、洞窟などの珍しい地形、自然現象など
 - ④ 組み合わせたもの (複合遺産)・・・古い建物と自然のものが一体となって成り立っている景色
- ・地域の人々が大切にしてきた「たからもの」が遠野遺産であることから、明確なストーリー設定は行われていない。個々の遠野遺産にストーリーがあるという認識はできる。

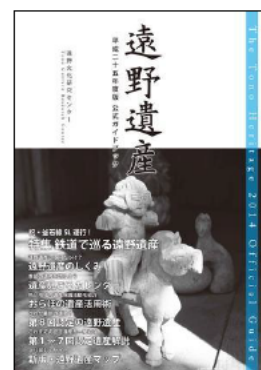
3-① 情報発信

○遠野物語

- ・市、観光協会、民間のバス会社それぞれがHPやパンフレット等によって遠野物語に関する情報発信を行っている。

○遠野遺産

- ・基本的には市民向けの制度であるため、市民への制度の周知が主な情報発信となっている。新たに認定された遠野遺産を紹介するとともに、遺産の活用術や制度の仕組み、遺産の整備事例などを紹介するガイドブックを作成し地域団体や主要施設に配布するとともに、外向けには販売を行っている。



遠野遺産ガイドブック (平成25年度)

- 遠野市観光協会のウェブサイトでは英語とイタリア語に対応したホームページが作成されている。

3-② 人材育成・普及啓発・継承事業

- ・遠野文化研究センターが主体となり「遠野文化フォーラム」を年に1回開催している。遠野物語に関連するフォーラムであり、プログラムの中で、その年に認定された遠野遺産の推薦団体を対象に、認定団体のステータスを高める演出として、市長から認定証を交付している。
- ・地域住民自らが地域の文化遺産を「遠野遺産」として申請する制度「遠野遺産認定条例」を設けることで、指定・未指定に関



出典：WEBサイト『遠野文化研究センター』

わらず、住民が主体となった文化遺産の維持・管理、活用、継承が進められている。

- ・遠野「語り部」1,000人プロジェクト

遠野に代々続く技術や職業、伝統料理、神楽やしし踊りなどの郷土芸能等、遠野の「昔話」「歴史」「食」「郷土芸能」「生業」について、3話以上語ることができる人材を遠野地域の「語り部」として認定する仕組み。イベント時や遠野観光において活動することもある。現時点で600名程度が認定されているが、そろそろ頭打ちとなってきている。

3-③ 環境整備

- ・遠野遺産に認定されたものについては、耐久性の高いプレート看板を設置している。

- ・遠野遺産を保護・活用していく仕組みとして、市民の創意工夫を凝らしたふるさとづくり活動を推進する「みんなで築くふるさと遠野推進事業補助金」の中に遠野遺産の特別枠を設けて、遺産の整備や維持・活用を補助している。



プレート看板（撮影：調査員）

4. その他

- ・文化課の担当は2名体制であり、市内の文化財の修復・整備から遠野遺産の制度運用ほか多くの業務を抱えているため、新しい事業を導入するには体制上困難な状態にある。

- ・遠野遺産という類似の制度を独自に推進している一方、日本遺産の認定を目指すためには歴史文化基本構想を新たに作成する必要がある、そのためには時間と労力が不足している。

(5) 福井県若狭町、小浜市

『厳しい冬も過酷な峠を越えてサバが運ばれた歴史の道「鯖海道」』

○地域の概要

<若狭町>

- ・若狭町は福井県の南西部に位置し、面積178.65km²の町である。平成17年3月31日に「三方郡三方町」と「遠敷郡上中町」が合併し、「三方上中郡若狭町」が誕生した。
- ・町へのアクセスは鉄道で京都からJR湖西線で近江今津駅、JRバス若江線で上中駅を経由しJR小浜線で三方駅まで約1時間50分である。



小浜市、若狭町の位置（出典：『小浜市・若狭町歴史文化基本構想』）

<小浜市>

- ・福井県南西部、若狭国中央部に位置し、北は若狭湾とその内湾である小浜湾に面する。古くから日本海の要港だった。東南部から小浜湾に流入する北川、南川、多田川流域に平地が開ける。
- ・市へのアクセスは鉄道で新大阪駅から特急サンダーバードで敦賀駅を経由し、JR小浜線で小浜駅まで約2時間25分である。



歴史文化基本構想の計画区域

（出典：『小浜市・若狭町歴史文化基本構想』）

○地域の歴史・文化財等の概要

<若狭町>

- 若狭湾国定公園の中心部にあり、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録された「三方五湖」、全国名水百選「瓜割の滝」、近畿一美しい川とされる1級河川「北川」など水資源が豊富な町である。
- この地の歴史は1万年以上昔の縄文時代にまでさかのぼり、「縄文遺跡」や「古墳」が数多く点在している。
- 国道303号は、かつて日本海と畿内を結ぶ「若狭街道」として多くの物や文化が行き交い、街道に沿って栄えた宿場町「熊川宿」は国の重要伝統的建造物群に選定されている。
- 福井梅発祥の地である。
- 若狭町古墳
若狭の前方後円墳は現在17基が確認されている。西塚古墳・上ノ塚古墳・中塚古墳・上船塚古墳・下船塚古墳の5基は、昭和10年に国の史跡に指定されており、中国や朝鮮半島から渡ってきた出土品も数多くある。
- 宇波西神社の神事芸能
4月8日に宇波西神社の例祭が行われる。王の舞は神々しく気品があると言われており、王を倒すと豊漁であると言い伝えもある。この神事芸能は、1976年に国指定の無形民俗文化財に指定された。

○六斎念仏

お盆行事の一つ。鉦（かね）をたたいて唱える念仏に合わせ、手に持った太鼓を打ちながら踊る念仏踊りの一種である。

＜小浜市＞

○律令政権以前より、ヤマト王権の日本海側として栄えた。江戸時代には小浜藩の城下町として繁栄を見せ、その当時からさばの水揚げ基地となっていた。

○畿内の色が濃い港町で、律令時代より前からヤマト王権の日本海側入口として盛えた。

○3伊勢志摩や淡路島と並んで、海産物を奈良や京都まで送った地域（御食国（みけつくに））の一つでもある。

○江戸時代には、浅井三姉妹の次女・初の夫である京極高次（京極氏）や、酒井氏などが治める小浜藩の城下町だった。この時代から鯖の水揚げ基地ともなっており、鯖街道の起点となった。

※鯖街道

もともと、「鯖街道」という言葉はなく、「若狭湾で取れた鯖に、一塩して夜も寝ないで京都まで運ぶと、ちょうどいい味になっていた」というのが由来となったと言われている。「鯖街道」は1本の道を示すものではなく、若狭湾のいくつかの湊から様々なルートを通じて京畿へ向かう複数の街道の総称として用いられている。その起源は古く、古墳時代から若狭湾沿岸と畿内との交流があった。当該地域における気山津も古代から中世にかけての重要な湊であった。そして、御食国の時代より朝廷に海産物や塩を運ぶ道として定着・発展し、特に近世以降において、若狭湾の海産物とともに北前船から陸揚げされた物資を運ぶ大動脈として小浜から京畿に向かう数本の「鯖街道」が発達し、沿道に宿場や集落が発展を遂げた。

「鯖街道」は、単に物資を運ぶだけではなく、政治、軍事、とりわけ文化の道として、大陸・半島などの文化を届けるとともに、都から幾多の文化をこの地に招へいし、自然を背景に社寺、町並み、民俗文化財が豊富に展開する「若狭と都を結ぶ往来遺産群」を形成している。

○その他地域の情報

＜若狭市＞


- ・姉妹都市：大阪府高槻市、大阪府吹田市、福井県南越前町
- ・若狭・三方五湖ツーデーマーチが毎年開催されており、全国的なウォーキングイベントとなっている。

＜小浜市＞

- ・姉妹都市：奈良県奈良市、大韓民国・慶州市、埼玉県川越市
- ・歴史と伝統ある食文化に着目することは、地域のアイデンティティの形成に寄与することになるとして、「小浜市食のまちづくり条例の制定」がされている。（平成14年4月1日施行）

1. 文化財のグルーピング

- ・小浜市と若狭町は「御食国（みけつくに）若狭の継承、そして発展ー若狭の文化食にありー」として、小浜市若狭町文化基本構想を策定平成23年3月に策定を行った。同平成23年3月に策定された『小浜市・若狭町歴史文化保存活用計画新たなる「御食国若狭」の創造へー保存、活用、そして発展ー』の中では、下記のようにグルーピングが行われているが、文化財に関しては付随する年代のものを追加記入している。
- ・さらに小浜市においては、「若狭の社寺建造物群と文化的景観」ー神仏習合を基調とした中世景観として、小浜市の社寺建造物群と文化的景観の世界遺産登録を目指している。

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○三方五湖</p> <p>三方五湖の歴史は数十万年前に遡る。水月湖は15万年にわたる歴史を湖底の年縞として今に伝えている稀有な湖である。出土する遺物は縄文時代に遡り、当該地域で最も古くから人々が住みついた地域といえる。</p> <p>○常神半島（鳥浜貝塚）</p> <p>縄文時代草創期から前期にかけて（今から約12,000～5,000年前）の集落遺跡。保存良好な木製遺物等1376点が国の重要文化財に指定されている。若狭町の若狭三方縄文博物館に遺物が展示されている。</p>  <p>出典：WEBサイト『ふくい歴史百景』</p>	<p>先史時代から現代 「人と自然とのたゆまぬ共生」</p>
<p>○脇袋古墳群</p> <p>日本海側の一大古墳密集地である。特に、若狭町脇袋の上ノ塚古墳や西塚古墳等の古墳群（国指定史跡）は膳臣一族の墳墓と伝えられている。また、十善の森古墳や丸山塚古墳等で出土したものには、半島・大陸からもたらされた工芸品を有し、海を越えた交流があったことがうかがえる。</p> <p>この地域は、古墳時代より朝廷に海の幸を中心に食料を供給する「御食国」であった。延喜式の記載や出土する木簡等でその存在が明らかとなっている朝廷に納めるものは、若狭湾で取れた魚が主流であったが、「調」として塩も多く送られているのも特徴の一つである。</p> <p>○三方石観世音</p> <p>北陸二十二箇所観音巡礼霊場第7番礼所。弘法大師（空海）が一夜のうちに彫ったといわれる片手観音が奉られている。手足の病にご利益があるとされている。</p> <p>○天徳寺四国八十八ヵ所石仏</p> <p>「四国八十八箇所の石仏をつくれ」という弘法大師のお告げにより開かれた霊場である。</p> <p>○岡津製塩遺跡（おこづせいえんいせき）</p> <p>土器製塩遺跡。古墳時代後期～奈良時代にかけてのものである。</p>	<p>古代から中世 「御食国若狭の成立」</p>

る。若狭で生産された塩は、奈良の都へ税（調塩）として納められていた。



出典：WEBサイト『福井県の文化財』

○お水送り

3月12日に奈良東大寺二月堂で行われる「お水取り」に先がけて、毎年3月2日に行われる小浜市神宮寺の「お水送り」は、奈良と若狭が昔から深い関係にあったことを物語る歴史的な行事である。

○若狭神宮寺

本堂は桧皮葺入母屋造り。和様の中に随所に大陸の様式を取り入れる中世末天文22年（1553）の建造物。神宮寺仁王門は柿葺切妻造りの八脚門。鎌倉時代末期の建造と想定される。

○白石神社・鵜の背

唐人の姿をして彦火火出見尊が垂迹した地として、若狭一宮元宮に位置付けられる。また、お水送り神事が行われる鵜の瀬は、大陸・半島と若狭小浜・奈良との文化の道を示す。若狭の仏教伝播と神仏習合を示す聖地である。

○若狭彦神社

本殿・神門・随神門とも江戸時代後期の造営。いずれも桧皮葺、素木造。古風で簡潔な神殿であるが、金箔鍔金物の華麗さが目を引く。

○若狭姫神社

本殿・神門・随神門とも江戸時代後期の造営。いずれも桧皮葺、素木造。中世以降、若狭彦神社下社として、その神事を中心地として栄える。本殿背後に中世経塚あり。

○萬徳寺

多田ヶ岳東麓の自然景観に抱かれ、多田ヶ岳、長尾山を仰ぐ庭園。江戸時代初期に作庭され若狭地方随一と賞賛される。

○若狭国分寺跡

奈良時代創建の若狭国分寺跡。現在曹洞宗国分寺が存在し、鎌倉期の重要文化財仏像を伝える。調査により検出された南大門から金堂にかけての遺構が整備済。境内（塔跡南接）にある古墳墳頂に若狭姫神社を祀る。

中世
「神仏習合の社寺と暮らし」

○明通寺

明通寺本堂は桧皮葺入母屋造りで、各部とも和様を基調とする。鎌倉時代正嘉2年（1258）棟上、文永2年（1265）供養。壮重で武家時代の力感に満ちた建造物。明通寺三重塔は桧皮葺三間三重塔婆。本堂より若干時代が下がり、鎌倉時代文永7年（1270）棟上。総高22.12メートル。初重内部は四天柱、脇間に彩色壁画を残している。明通寺旧境内は現存する本堂、三重塔、客殿の周辺に二五の僧坊区画の痕跡を残す。

○多田寺・多田神社

若狭国遠敷郡筆頭の多太(多田)神社は、多田ヶ岳を神体として成立したと考えられ、多太(多田)寺はその神宮寺の可能性が高い。多田寺には奈良期の仏像を多く伝え、創建の僧「勝行」との関連も指摘されており、わが国の初期神仏習合の成立との関連が深い。

○妙楽寺

妙楽寺本堂 附厨子は桧皮葺寄棟造り。円柱・斗拱などの軒回りは和様で、全体的に雄健で純朴清楚な味わいのある鎌倉期の建造物。厨子に永仁4年（1296）の墨書がある。

○羽賀寺

桧皮葺入母屋造りで、各部とも和様を基調とする。室町期の火災後、奥州十三湊の日下將軍安倍康季により文安4年（1447）に再建。

○飯盛寺

茅葺寄棟造りで、各部の基調は和様を主とする。室町時代の火災後、延徳元年（1488）再建されたことが修理により判明。平成8年解体修理完工で、瓦葺きから近世の茅葺に変更した。

○熊川宿・小浜旧市街

江戸時代、若狭と京の都を結び街道の中継点として栄えた宿場町。町並みに沿って流れる前川が、妻入りと平入りの混ざった家並みに連続性を持たせるという特徴を持つ。



出典：WEBサイト『若狭鯖街道熊川宿』

この前川は、今も生活用水

として使われており、住む人の暮らしが今も息づいている。

（※妻入りとは棟を街道に対して直角に置く建物のことで、街道側では、屋根の三角の部分が見える。平入りとは、棟を街道に対して平行にさせた建物のことで、街道側では軒がまっすぐに見える。）

近世

「京へつながる鯖街道」

○小浜城下町（小浜西組）

嶺南の中央、若狭地方の中心に位置する小浜市の中心市街地は、湊町小浜と城下町によって築かれた町であり、現城下町としては戦国期、若狭国守護武田氏が後瀬山に築城して本拠とし、麓に町が開かれたのを皮切りに、江戸初期、京極高次が雲浜の地に築城を始め、その後に酒井忠勝が京極氏の築城を引き継ぎ、寛永 19年(1642)、40余年の歳月をかけて小浜城を完成させた。酒井氏は城郭とともに城下町の整備も行い、寛文年間(1661～1672)、小浜は約20,000人を抱える日本海屈指の城下町となった。

○「小浜西組」（三丁町）

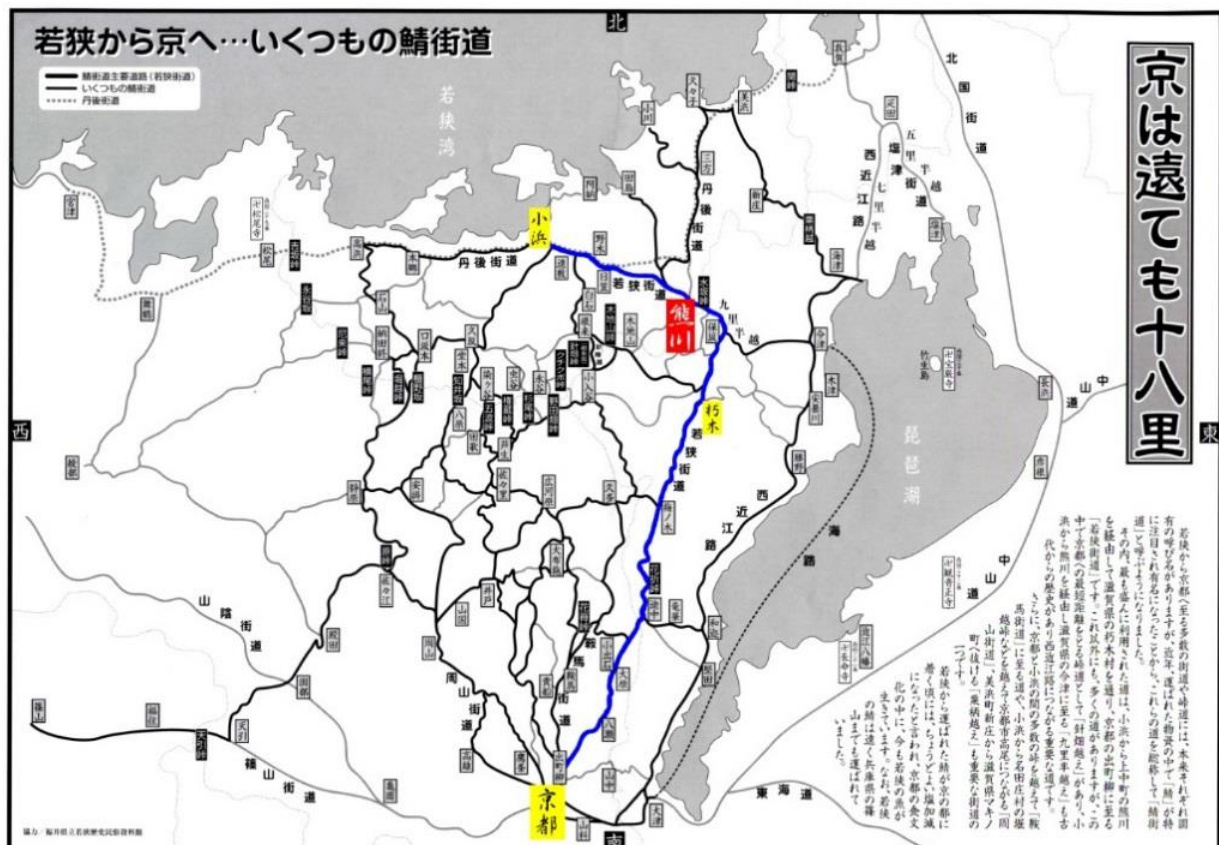
小浜市の小浜香取地区にある江戸時代に栄えた遊廓で、今も古い家並みが残っている。近隣の商家町や寺町を含め「小浜市小浜西組」の名称で国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、伝統ある町並みの保護と活用が進んでいる。

○諦應寺（たいおうじ）の銀杏観音

樹齢450年のイチョウの大木に直接彫られた珍しい立木仏。町指定の文化財である。

中世から近世、近代
「海に開かれた小浜城下町」

<鯖街道のマップ>



出典：WEBサイト『若狭鯖街道熊川宿』

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

- ・「若狭湾で取れた鯖に、一塩して夜も寝ないで京都まで運ぶと、ちょうどいい味になっていた」という場が残っていることから、この土地は「鯖街道」と呼ばれてきた。
 - ・また、古くから「御食国」として食文化とともに歩んできた歴史が色濃いことから、「鯖街道」及び「御食国」としてのストーリーが地域との関連が色濃い。
 - ・例えば、「現代の御食国」の在り様として、縄文時代から現代へのメッセージとしての共生循環の人と自然の関わり、御食国若狭の歴史的史実、豊かな自然の中での海の食材を通じた「食育」及び「観光」の発信。また、「交流」で育まれた文化財群は、文化財の枠にとらわれない、より暮らしに密着した地域遺産の潜在力をもち、これら地域遺産の潜在力を生かしたストーリーが考えられる。
 - ・さらには、「鯖街道」のブランドを一層高めるため、京都との連携を進めるとともに滋賀県の大津・高島及び西の鯖街道としてまちづくりを進めている高浜町・おおい町との連携も模索し、さらには「御食国」として若狭の鯖やカレイ・グジ・熊川葛などの「若狭モノ」のブランド化を官民一体となり進めることが必要となる。
- ※熊川葛（くまがわくず）は、日本三大葛のひとつに数えられ、天保元（1830）年、江戸時代の儒学者頼山陽が病気の母への見舞品としてこれを送り、その手紙の中で「熊川は吉野よりほど上品にて、調理の功これあり候」と評したことで知られている。
- ・また、有形無形の文化財のみならず、人物の足跡についての顕彰は、人の心に届く不可欠の課題である。

3-① 情報発信

- ・地域に関連するパンフレット等は、各種団体が作成しており、観光案内所等で配布をしている。また、ホームページ上でもダウンロードや資料請求が可能となっている。
- 例) ～歴史のまち小浜散策マップ～（おばま観光局）
～小浜ぶらり小浜古地図～（株式会社まちづくり小浜）
- ・小浜市では、食のまちづくり課を設置し、地元ケーブルテレビを通じて、食育サポーター、語り部、達人などの「食」に関する市民活動の紹介をしている。
 - ・英語、韓国語、中国語に対応したパンフレットを作成している。



出典：WEBサイト『小浜市観光スタッフ支援サイト』

3-② 人材育成・普及啓発・継承事業

【文化財に物語性を持たせる歴史的人物顕彰と教育】

- ・小浜市においては、「小浜市の歴史と文化を守る市民の会」による杉田玄白、伴信友、梅田雲浜などの顕彰事業があり、さらには「人の駅」として説明板を設け、市内各所において人物顕彰が行われている。
- ・若狭町においては、膳臣、松木庄左衛門、佐久間勉を顕彰する若狭町偉人顕彰会による顕彰事業が行われている。
- ・また、子供たちの取り組みについても、小浜市における「文化財愛護少年団」や食育活動（食文化館のキッズ・キッチンなど）、若狭町熊川宿における「子供語り部」などの萌芽がある。

【地域伝統産業と教育】

- ・小浜市は、日本食文化の象徴である塗り箸の一大産地でもあり、地域伝統産業の若狭塗り箸が占める、国産塗り箸の生産シェアは9割を占める。市は、食育や地産地消の観点から、全国をリードして箸文化を大切に後世へ継承していく役割を強く認識し、「ふるさとしごと塾3」や「箸の研ぎ出し体験」、各種講習等において、箸の正しい持ち方の普及や、地場産業への理解促進等に努めている。

【官民の協働による住民活動】

- ・地域レベルの文化財の保存と活用協議会、民間NPO法人等による取組（自然環境団体、観光ボランティア等）、重要伝統的建築物群保全地区の協議会など数多くの取組が実施されている。
- ・小浜市では、2013年に伝統行事と食の基本調査（各地区に潜在している行事など）を市民の方が調査員に入り実施。また、それに基づいてシンポジウムを開催。

【大学連携】

- ・小浜市では、かつて京都橘大学、立命館大学も来ていた。現在では、サバの研究、井戸の調査を滋賀県立大学（民俗学関係の研究）が実施している。
- ・若狭町では、立命館大学（熊川のまちなみ）、東京大学（みかた五胡の水質調査）、滋賀県立大学（民俗学関係の研究）と連携。

【国際交流】

- ・海外との交流については、韓国の鯖街道(ヨンドクからアンドン)をテーマにした韓国と小浜市・若狭町熊川宿における交流や食育をテーマにした小浜市と韓国キョンジュとの交流、歴史的建造物保存をテーマにしたブータンと若狭町熊川宿との交流がある。

3-③ 環境整備

【文化財関連施設】

- ・若狭地域の文化財を包括的に展示する「福井県立若狭歴史民俗資料館」をはじめ、鳥浜貝塚の研究成果や出土遺物をベースにした、共生・循環という現代社会へのメッセージを唱える「若狭三方縄文博物館」、古墳時代の若狭と朝鮮半島との関係を示す「若狭町歴史文化館」、御食国若狭の歴史をベースにした食のまちづくり拠点施設「御食国若狭おぼま食文化館」、文化財建造物の屋根に葺かれている桧皮や茅等の植物性資材の供給とその担い手の育成に努めている「ふるさと文化財の森センター」、熊川宿と鯖街道の歴史を伝える「若狭鯖街道熊川宿資料館」という若狭の地域性を語る文化施設がある。
- ・文化事業の取組について、埋蔵文化財や民族文化財の調査は比較的進んでいる。また行政と住民の協働で地域をまとめていく必要がある伝統的建築物群保存地区が2つ存在する。
- ・各種資料館、博物館の建設、「人の駅」の設置や鯖街道イベントの実施など活用に関する施策の推進が行政によって図られてきた。「食」に関連する取組が多いのが特徴となる。

4. その他

【保存に対する課題と対策】

- ・目立った産業も持たない当該地域において、人口の減少、経済活動の停滞などから地域社会の崩壊に至る危険性も秘めている。
- ・空き家化、改変、建て替えの進行による歴史的町並みの破壊。

- ・若狭町の多くの文化財は区で管理されているため、地域社会の崩壊は文化財の管理不足、民族文化財や伝統技術の担い手不足などを生み出す。さらに、担い手不足から行事の簡素化や中止されるなどの恐れがある。
- ・施設やサインによる文化財をとりまく景観が阻害されている。
- ・行政における文化財の位置づけを強化するとともに、文化財と住民を守る防災体制、文化財管理体制などの強化と仕組みづくりを行政内部と地域で構築することが必要。
- ・また、観光施設などの整備については、景観計画に基づくコントロールが必要。
- ・その他、まだ認知されていない地域資源が多数存在している中で、まず掘り起しと調査を継続して進め、その位置を明確にしていくこと。さらに、保存を担保する文化財指定を適切に行っていくこと。

【活用に関する課題と対策】

- ・住民の地域に対する誇りが薄らいている。
- ・公開民家は設定されておらず、古墳等の史跡にしても見学等の手だては講じられていなく、また豊富な民族文化財も観覧できるような情報がないなど、文化財を身近に感じられない。

【交通環境】

- ・舞鶴若狭自動車道の小浜ICから敦賀JCTまでの間（約39km）が、7月20日（日）に開通し、中京方面から小浜市が近くなる。また、平成24年6月29日、北陸新幹線 金沢・敦賀間の着工認可が決定し、これにより、北信越や北関東へのアクセスが格段に早くなる。

(6) 三重県明和町

『都を遠く離れ、伊勢神宮に仕えた皇女が住まう幻の宮「斎宮」』

○地域の概要

・明和町（めいわちょう）

三重県多気郡に属する。伊勢街道沿いにあり、古代には天皇の名代として伊勢神宮に奉仕した斎王の住んだ斎宮（斎王宮）があった。松阪市と伊勢市の間に位置し、伊勢湾に面している。

・アクセス

（鉄道）東海道新幹線名古屋駅から近畿日本鉄道松阪駅を経由して斎宮駅、または明星駅。東京からは約3時間半。（車）東名名古屋ICから東名阪関JCTへ、伊勢自動車道の玉城から明和。約5時間40分。

・人口23,197人、世帯数8,518世帯

（平成26年9月現在（住民基本台帳））



出典：明和町資料『環境基本計画』

○地域の歴史・文化財等の概要

- ・町内からは、数多くの遺跡や古墳が発見され、この地の歴史が大変古いものであることを物語っている。七世紀末、天武王朝の頃には伊勢神宮に使える斎王の住まう斎宮ができ、その規模や出土品から、中世にいたるまでの間、三重県南部の産業・文化の中心地であったことがうかがえる。
- ・奈良時代以来、明和町は神宮領に属し、多くの御園が置かれ、また江戸時代には藤堂藩・鳥羽藩・紀州藩・神宮領と多くの藩に分割して統治されていた。
- ・現在の町南部を通る伊勢街道はお伊勢参りの人々でにぎわい、当時は宿場町として、また伊勢平野の中心は穀倉地帯として栄えた。
- ・明治22年の市町村制施行により、大淀村・下御糸村・上御糸村・斎宮村・明星村が成立。昭和30年には大淀町・下御糸村・上御糸村の三つの町村が合併して三和町に、斎宮村と明星村が合併して斎明村となる。続く昭和33年にはこの二つの町村がさらに合併し、一字ずつをとって明和町が誕生した。

※斎王とは

天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えるために選ばれた、未婚の皇族女性のことである。歴史に見られる斎王制度は、天武二年（674）、壬申（じんしん）の乱に勝利した天武天皇が、勝利を祈願した天照大神に感謝し、大来皇女（おおくのひめみこ）を神に仕える御杖代（みつえしろ）として伊勢に遣わしたことに始まる。以来、斎王制度は660年以上にわたって続き、60人以上の斎王が存在した。伝説は、伊勢に天照大神を祀った倭姫命（やまとひめのみこと）など、さらに多くの斎王の物語を伝える。制度が確立して以降の斎王は、卜定（ぼくじょう）という占いで選ばれ、斎王群行と呼ばれる五泊六日の旅を経て伊勢へと赴いた。その任が解かれるのは、主に天皇が代わったときのみであった。年に三度、伊勢神宮に赴く以外は、一年のほとんどを斎宮で過ごし、神々を祀る日々を送っていた。また、神に仕える身ゆえに恋をするこ



出典：第22回斎王まつり万叶集斎王賞（撮影：島 哲司氏）

とも許されず、伝説に語られる斎王の中には、恋ゆえに斎王を解任されたり、恋人と引き裂かれたり、己の命を絶って身の潔白を証明したものもいた。

＜文化財（国指定5件、県指定18件、町指定25件）＞

・史跡斎宮跡（国指定）

「幻の宮」とされてきた斎宮跡は、昭和45年の団地造成の計画をきっかけに事前発掘調査が行われ、一般の住居跡から出土しない緑釉陶器、蹄脚硯など多くの土器が出土し、斎宮跡が明和町の斎宮にあったことが裏づけられた。その後、昭和48年から3か月にわたって史跡の範囲確認調査が行われ、東西約2.0km、南北約0.7kmの137.1ヘクタールにおよぶ広大な面積を占めていることが明らかになった。このことからわが国の歴史・文化を解明するうえで重要な文化遺産として、昭和54年3月27日に国指定を受けた。この斎宮は天照大神の御杖代として、代々の天皇ごとに伊勢に派遣されていた「斎王」の御所であるとともに、その事務を取り扱った官人の役所でもあった。



出典：WEBサイト『斎宮歴史博物館』

・天然記念物 斎宮のハナショウブ群落

この群生するショウブは、現在栽培されているハナショウブの原種「ノハナショウブ」で平野に群生しているものは珍しく、昭和11年12月16日に国の天然記念物に指定された。この花は通称「どんど花」と呼ばれ、古代にはこのあたり一面に群生し、花どきになると「紫の雲がたなびくように、たいへん美しいながめで、伊勢参宮客の目を楽しませた」と古書に記されている。このノハナショウブの群生地も時代とともに減少してしまい、今では6アール余りの湿地に保護され、毎年6月に咲く紫紺の花は、昔の面かげを偲ばせている。



出典：明和町ホームページ

・斎宮女御集（県指定）

徽子女王（きし／よしこじょう、929-985）は、斎王の役職を経たのち後宮にあがり天皇に仕え、女御の宣旨を受けたことから「斎宮女御」と呼ばれた。和歌と琴の名手であったと伝えられる。死後編纂された『斎宮女御集』に、たおやかで優婉な和歌の数々がおさめられている。また、三十六歌仙の中でも五人しかいない女流歌人のうちの一人である。

・斎王尾野湊御禊場跡（町指定）

明和町の北東に位置する大淀海岸はかつて「尾野湊（おののみなと）」と呼ばれており、旧暦9月の神嘗祭の際に、大淀の浜で斎王が禊を行っていたとされている。

＜その他歴史資源＞

・竹神社

斎王は卜定の後に「やや神に近づく」ために世俗からの隔離措置が取られ、その地を野宮と言った。当地はかつて野宮がまつられていた場所である。中世、斎宮城であったところで、当時の石垣が今も残されている。

・斎王の森

齋宮跡のシンボルゾーンとして親しまれている史跡公園。鳥居をくぐると「齋王宮跡」を示す石碑があり、隣接する芝生広場には、掘立柱建物の柱跡や井戸の復元、また万葉詩人としても知られる齋王、大来皇女の歌碑などが立てられている。また、公園前は菖蒲園になっており、毎年6月上旬、齋王まつりのころに紫色の花を咲かせる。



出典：明和町ホームページ

・佐々夫江行宮跡

天照大神の御霊をお祀りする場所をさがして各地をまわった倭姫命は、伊勢の地に入ったのち大淀に御船をとめて佐々夫江にお宮をつくり、しばらくこの地にとどまった。

現在山大淀の西、笹笛橋の近くの田の中に1メートルほどの高さの碑が立っていて「竹佐々夫江旧跡」ときざんである。



出典：明和町ホームページ

・業平松

その昔斎王が、伊勢へ狩りの使いに來た在原業平との決別を惜しみ、歌を詠み交わしたという故事により、大淀にあるこの松を業平松というようになった。現在の松は三代目で、周囲は業平公園となっている。



出典：明和町ホームページ

○その他地域の情報

<お祭り、イベント>

・斎王まつり

6月上旬、斎宮歴史博物館を中心に2日間にわたって繰り広げられ、平安時代の王朝の風習を現代に再現する。1日目は前夜祭とみそぎの儀が行われ、2日目には主役の斎王をはじめ、女別当・内侍など総勢約200人が「斎王群行」を行う。天皇の名代として伊勢の大神に仕えるため、都を離れ斎宮寮へ旅立った斎王とその一行の群行の様子が、華やかに再現される。明和太鼓や雅楽などのアトラクションも。斎王のみ霊を鎮めようと始まったこの祭りは、今では町を代表する祭りの1つとなり、国史跡である「斎宮跡」のPRにも一役買っている。



出典：明和町ホームページ

・大淀祇園祭

疫病除けと農漁業の繁栄を祈り、江戸時代中期から始まった祭。毎年旧暦6月14日（現在はそれに近い土曜日）に行われる。宵宮の東区の山車を皮切りに、当日は三世古（西区・北区・中区）、山大淀の山車が区内を練り歩き、笛や太鼓の威勢のいい音が祭りの雰囲気盛り上げる。夕刻、山車を2隻の漁船に乗せて大淀漁港に浮かべる海上渡御で、祭はクライマックスを迎え、夜には盛大な花火大会も催される。



出典：明和町ホームページ

1. 文化財のグルーピング

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○斎宮跡</p> <p>斎宮跡は、古代から中世にかけて設置された斎宮（斎王の居住した宮殿と、役所・斎宮寮）を中心とする遺跡。その規模は、東西約2キロメートル、南北約700メートルに及び、約137ヘクタールもの広大な面積を有す。</p> <p>昭和45年（1970年）に始まった発掘調査によって、「幻の宮」とされてきた斎宮の解明が進んでおり、国史跡に指定された昭和54年（1979年）以降は、調査だけでなく、史跡斎宮跡を守り伝えるために、史跡を整備し活用していくことも重要な課題となっている。</p>	<p>奈良～平安</p>

<p>○齋宮跡出土品</p> <p>齋宮跡からは、奈良時代や平安時代の大溝や大型掘立柱建物が発見され、祭祀用の大型土馬、宮廷用のすずりと見られる蹄脚硯（ていきやくけん）が出土している。蹄脚硯は、全国でも平城京・大宰府・法華寺・大安寺しか発見されていない類のもので、宮殿の官人たちが使っていたものである。他にも、大量の緑釉（りよくゆう）陶器や墨書土器が出土している。</p> <p>緑釉陶器は、平城京や大宰府をはるかにしのぐ量が発掘されたにもかかわらず、窯跡は県下に確認されていないことから、齋王とともに京の都から持ち込まれたと考えられている。</p>		<p>飛鳥～平安</p>
<p>○齋宮のハナショウブ群落</p> <p>明和町の町花で、別名「どんど花」。毎年5月下旬～6月上旬にかけて、濃紫色の美しい花が咲く。平野に群生しているのは珍しく、国の天然記念物として昭和11年（1936）12月16日に指定された。</p>		<p>—</p>
<p>○齋宮女御集</p> <p>齋王を経て後宮にあがり、天皇に召し仕え女御の位をうけた徽子女王（きし／よしこじょう）が得意とした和歌を、彼女の没後再編した歌集。</p>		<p>鎌倉</p>
<p>○齋王尾野湊御禊場跡</p> <p>明和町の北東に位置する大淀海岸はかつて「尾野湊（おののみなと）」と呼ばれており、旧暦九月の神嘗祭の際に、大淀の浜で齋王が禊を行っていたとされている。</p>		<p>—</p>
<p><その他伊勢神宮関連></p> <p>○伊勢街道</p> <p>正式名称は伊勢参宮街道。日本の各方面から伊勢神宮への参拝道として整備された街道で、現在は県道428号線になっている。屋根の特徴的な模様、江戸時代中期の門、鬼門瓦、雁木や格子戸の残る家などが点在している。</p>		<p>江戸</p>

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

「神に仕えた女性の幻の都・斎宮」

- ・斎宮にまつわるストーリーが特徴的である。このストーリーが人をひきつける理由として、まず、天皇に代わり神に仕える女性、という神秘性があげられる。
- ・初詣やお宮参り、七五三など、神道文化は日本に土着している。なかでも皇祖神・天照大神を祀る、日本のすべての寺社をつかさどる伊勢神宮は、近年、パワースポットとして現代においてもなお注目されている。
- ・しかし、斎王という存在や斎王の居住地であった斎宮について知る人は少ない。
- ・日本の歴史の中でなかなか表舞台に出ることのできなかつた女性をストーリーのメインに据えることで、日本の歴史、なかでも古代史・中世史の敷居の高さが緩和されるのではないだろうか。天照大神が女性であることからわかるように、日本における神と女性は密接な結びつきがある。歴史について興味のある女性はもちろん、伊勢神宮＝パワースポットという情報しか持っていない女性にも、興味をもってもらえるのではないだろうか。
- ・明和町斎宮という土地だけでなく、町の北の下御糸（しもみいと）には、斎王が着ていた衣装の藍染をしていた工房がある。また、町の北東の大淀海岸では、秋の収穫祭神嘗祭の前に斎王が禊を行ったとされる海岸もある。このように、地域をまとめて一つのストーリーにすることは可能である。
- ・女性が土地のトップであった、またその女性が天皇という国の中心の代役であったということ、現実世界から伊勢神宮という神の国へのつながりを保っていた町というストーリーが考えられる。
- ・ストーリーの例：斎王決定から斎宮へ赴くまでの流れ（未婚の内親王もしくは女王が、ト占によって選別される）→斎王自身の葛藤（神に仕える身＝神の伴侶であるゆえ、もちろん恋愛はゆるされない）→斎宮での生活（斎宮は、斎宮寮と呼ばれる役所を除きすべて女性が住んでおり、文芸サロンとしての様相も見せていた。斎宮・斎宮寮で働いていた人数は500人を超え、小さな都市を形成していた）

3-① 情報発信

- ・伊勢神宮の内宮・外宮だけにお参りするのではなく、斎宮にも来てほしいという希望から、去年は遷宮の年ということもあり、「内宮外宮斎宮」というスローガンを打ち出した。
- ・明和町マスコットキャラクター（めい姫）の製作



明和町マスコットキャラクター

『めい姫』

（出典：明和町ホームページ）

・観光ガイドブック（明和町）



・フェイスブック（明和町）



- ・「斎宮の日」の制定（3月19日）への取り組み
- ・「(仮称) 斎王サミット」の開催の取り組み
- ・FM三重（毎週月曜16:00～16:30）（終了）
緊急雇用創出事業活用「ふるさと番組」として、『きてみて明和、王朝ロマン。』のタイトルで放送。
町の情報やイベントなどを紹介。
- ・伊勢神宮の「内宮・外宮」と合わせ、「内宮外宮斎宮」とセットで観光してくれるのが最善策であり、そのためには伊勢市との連携が不可避（行政的には伊勢市（渡会）と松阪市（多気）がまざっており、電話の市外局番は伊勢、ごみは多気と共同である）である。
- ・バス会社、ガイドブックを発行する出版社ともっと連携したい。
- ・斎宮歴史博物館のウェブサイトでは、英語対応のページを作成している。



トップページ > What is Saijū?

What is Saijū?

The Chinese characters for "Saijū", are also read "Itsukinomiya".
This countryside, which has an unusually elegant name, was once the dwelling place of the Saijū, who served the Great God of Ise.
Saijū refers to the palace of the Saijū, who was also referred to as "Itsuki-no-himejima" and appointed by each succeeding Emperor to serve at the Grand Shrine of Ise (Ise Jingū), and her servants' public offices.
The Saijū, selected from amongst the unmarried Imperial princesses and appointed through fortune-telling, would undergo purification rites with her court for a period of 3 years before embarking on the journey to Saijū. During the Heian period, this journey, called "gunko" (mass procession), proceeded initially from the town of Ōmori through the mountain range of Suzuka before ending in the land of Ise, lasting 6 days and 5 nights.



出典：WEBサイト『斎宮歴史博物館』

3-② 人材育成・普及啓発・継承事業

人材育成

- ・ガイドボランティア（高齢の方が多く、現在25名ほど）
自治体で育成をしているわけではないが、補助・支援はある。
- ・博物館で勉強会などを行っている。また、最終月曜に月例会を開いている。

普及啓発、継承事業

- ・小学校に博物館が出前授業をしており、児童は斎宮の歴史や発掘実習などを「総合的な学習の時間」内で学んでいる。
- ・斎宮についてのシンポジウム、フォーラムは年に3、4回のペースで行っている。

3-③ 環境整備

○斎王歴史博物館（県立）

入場料金一般340円。開館時間は午前9時30分～午後5時（但し、入館は4時30分まで）

世界に唯一無二の遺跡「斎宮」の解明に、文献資料と考古学の両面から取り組み、斎宮を介して歴史の面白さ、文化財の大切さを発信するため、平成元年会館された。



斎王歴史博物館（撮影：調査員）

○いつきのみや歴史体験館

「史跡斎宮跡」の保存活用・整備の一環として、文化庁の補助を受けて実施している地方拠点史跡総合整備事業（歴史ロマン再生事業）により建設され、平成11年10月2日に開館した。施設内では、斎宮が最も栄えた平安時代を中心に、歴史や文化を身近に体験・学習できる事業を実施している。具体的には、十二単や直衣など本格的な王朝貴族の装束を試着したり、年中



出典：WEBサイト『三重の里いなか旅のススめウェブサイト』

行事にちなんだ食べ物や小物をつくったり、古代の技術文化などを体験する草木染めや機織りなどが体験できる。

○史跡斎宮跡の保存・復元と住民の生活との共存

- ・斎宮跡の十分の一模型を作成。当時の斎宮の様子をミニチュアで再現した。
- ・電信柱をポールで覆い、目立たなくする。
（電線も地下に埋めたいが、アスファルトの下は遺構があるため、できない）
- ・斎宮跡は現在3棟復元中で、平成27年7月に竣工予定。
- ・最寄り駅である近鉄斎宮駅に北口改札を開設し、その周辺を発展させる。
- ・道路の幅を倍増する。
- ・道路の脇に樹木を植栽する。
- ・歴史体験館では、十二単などの着付け体験が可能。しかし、要予約であるため気軽に訪れることは難しい。外国人観光客（主に中国人）からの反応が上々であったため、予約なしでの体験を検討している。



出典：WEBサイト『斎宮歴史博物館』



出典：WEBサイト『斎宮歴史博物館』

4. その他

- ・現在、斎宮を3棟復元しており、平成27年に竣工予定である。しかし、整備費に県の補助等がなかったため、竣工後はなんらかの形で収益が必要である。例えば、復元した斎宮の入場に料金を課すほか、食事場所（固定でも、移動販売でも）や休憩所をつくり、そこから収益を得るといった方法を検討する必要がある。
- ・町全体において、受入体制がまだ整っていないため、食事場所をはじめ、休憩所やトイレの設営を急いでいる。
- ・観光面における伊勢神宮とのつながりの強化は必須である。ガイドブック（パンフレット、書籍）やバス会社に働きかけることなどを検討。たとえば、伊勢神宮のページに大々的に乗せてもらう、伊勢神宮ツアーに組み込んでもらうなど。伊勢市ともっと強い連携をはかっていきたい。
- ・斎宮に関する地域の人の関心が薄いため、町内住民を巻き込めるイベントを立ち上げ予定である。近鉄の駅の北側の発展が望まれるため、イベントを企画中である。斎宮の日（3月19日）に、テープカットを行うなど。しかし年度末で自治体は忙しいので、近鉄に任せたい。
- ・県、町、財団、博物館で開発や発掘調査の連携はとれているつもりだが、資金の確保は課題である。そのために日本遺産事業を行い、資金を確保していきたい。
- ・外国人観光客が激増するだろう平成32年までに、具体的な観光策案を策定し、情報発信していきたい。
- ・町だけで情報発信や宣伝をしようとしてもうまくいかないため、デザイナー等に外注を検討している。そのための費用も必要である。
- ・現市長は斎宮跡での観光誘致に非常に協力的である。

(7) 奈良県高取町

『飛鳥時代の「大和の薬売り」から現代の「製薬産業」まで、薬と歩んだ歴史が残る町』

○地域の概要

＜高市郡高取町＞

- ・高取町は奈良県の中部に位置し、面積は25.77km²である。
- ・市へのアクセスは西名阪自動車道郡山ICから国道24号線（橿原市方面）へ国道169号線で郡山ICより約60分。鉄道では近鉄大阪線「鶴橋駅」乗車、大和八木駅と「橿原神宮前駅」で乗り換え、鉄吉野線「壺阪山駅」下車で約50分。
- ・人口7,534人、世帯数2,902戸である。
（平成24年5月末現在）



出典：高取町ホームページ

○地域の歴史・文化財等の概要

（古代）

- ・飛鳥時代は、日本の黎明期にあつて、中国や朝鮮半島の国々と伍する律令国家建設への胎動が始まった時代であり、古代の為政者は、先進技術・文化を持っている外国人（渡来人）を積極的に受け入れ強力な中央集権国家を誕生させてきた。高取町は渡来人が闊歩していた古代の国際都市であり、万葉集にも詠われ、高取町出身の最初の「征夷大將軍・坂上田村麻呂」が活躍している。

（中世）

- ・平安時代末期には、律令制度が疲弊して、貴族が没落し、変わって武士階級が登場し、武家政権である鎌倉幕府を樹立する。大和国にあつては、高取町を本拠地とする「越智氏」と大和郡山市を本拠地とする「筒井氏」が大和国の覇権争奪戦を繰広げ、また、中世を代表する文化である能楽「越智観世」と謡曲「田村」が流行した。

（近世）

- ・関が原の戦いに勝利した徳川家康は江戸に徳川幕府を開府する。高取町は越智氏が戦国末期に筒井氏に敗れ、日本一の山城高取城の城主として、徳川御国衆（徳川家譜代の武士）の植村氏が、高取藩主として家康より大阪の陣で活躍した「大砲」を授かり吉野の押さえの任務を託され入部し、幕末尊皇攘夷の天誅組の襲撃を受けその「大砲」により撃退した。

（近代）

- ・廃藩置県により、城下町として栄えた高取町は、山間の一小都市に転落する。衰退する元城下町の復興と窮乏する士族の救済策として、古代よりゆかりのある「製薬・売薬」に命運をかけ「売薬の高取町」として甦った。

○その他地域の情報

- ・「町家の雛めぐり」が2007年から開催されており、約百軒の民家や店舗でお雛様の展示を行っている。
- ・奈良産業大学と提携し、日本三大山城の一つ「高取城」をなんとか後世に引き継ぎたいという思いのもと、「高取城CG再現プロジェクト」を行っている。

1. 文化財のグルーピング	
高取町の歴史は古く、古墳時代や飛鳥時代の遺跡が多く残る場所である。また、くすりの町としても飛鳥時代から発展を遂げてきたが、各文化財のグルーピングは特に行っていない。	
文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○古墳群 高取町は県下有数の古墳の多い地域で、古墳密度では圧倒的に県下の地域。その内でも、最も規模が大きく平坦地に位置する前方後円墳の市尾墓山古墳は、周辺の住民が春になるとワラビ採りや草刈などを行い、周辺地域のシンボルともいべき存在。古代の豪族「巨勢氏」がこの市尾墓山古墳に眠っている。</p> <p>○山城「高取城跡」 高取山（583.9m）山頂に築かれた典型的な山城。日本三台山城の一つと言われている。 南北朝以来、越智・本多・植村氏の居城として使われてきた。</p> <p>○壺阪寺 真言宗の寺で、西国三十三所観音霊場の第六番札所。 目の観音様として全国各地から毎日多くの参拝者が訪れる。 平安期には、平安貴族達の参拝も盛んになり、清少納言は「枕草子」のなかで「寺は壺坂、笠置、法輪・・・」と霊験の寺として、筆頭に挙げている。 明治の初め、盲目の夫沢市とその妻お里の夫婦の物語、人形浄瑠璃『壺坂霊驗記』が初演され、歌舞伎、講談、浪曲となり壺阪寺の名は大きく世に広まっていった。</p> <p>○渡来人 先進技術・文化を持っている外国人（＝渡来人）は、日本の古代文化の根幹をなしたものであり、彼らが居住した高取町は、飛鳥文化の源流地としての役割を果たし、古代の国際都市だった。</p> <p>○紀路 飛鳥から高取町域を経て西南方向へのび、遙か紀ノ川河口に達する古道を古代には、紀路（きじ）と称され沿道にある天皇陵などが、万葉集に詠われている。紀ノ川河口は6世紀末まで大和朝廷の外港として重要な機能を果たし、異国の文物や渡来した人々は、紀路を経由して大和に入ってきた。</p>	<p>飛鳥時代～ 「大和の薬売りの始まり」</p>
<p>○植村家長屋門 旧高取藩家老屋敷門で、文政9（1826）年の建立で一重入母屋瓦葺き造り、門内の東西に各四室の部屋がある。 江戸時代は、高取藩に仕える中間たちがそれぞれの部屋に住んでいた。近代武家屋敷表門の遺構を残している貴重な建物で、現在は旧藩主植村氏の住居となっている。</p>	<p>江戸時代～現代 「配置販売の始まり・先売後売と薬の町としての発展」</p>

○神農薬祖神祭

明治40年から薬祖神を祭っている。薬祖神とは日本の医薬の神である「少彦名命」（すくなひこなのみこと）であるが、「神農さん文化」という「神農本草経（しんのうほんぞうきょう）」という書物を作ったとされる



出典：WEBサイト『高取町観光ガイド』

「神農さん」が広まり親しまれたことから、この二つの神を総称して「神農さん」として祀られるようになった。昭和40年頃に下土佐恵比寿神社に社が建立され、今も神農薬祖神祭が11月22日に行われている。

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

- ・高取町は「くすりの町」して飛鳥時代から発展を遂げてきた。「大和の薬売り」として、現代でも薬産産を核として印刷・投薬容器などの製造業も盛んである。周辺産業と連携しながら、高取ならではの地場産業を築いている。
- ・現在、文化財と薬の町たかとりとの関連性は明確ではないが、「薬」は古代から続いている高取町の地場産業であり、地域の歴史を語る上で重要な役割を果たしていることから、今後ストーリーを明確にしたまちづくりの展開が考えられる。

【大和くすりの歴史】

- ①5世紀後半、異国から大壁建物（おおかべたてもの）、オンドル（床下暖房）など特殊な文化とともに、渡来人より医薬術や薬の効用を伝え聞く。
- ②豊かな自然に恵まれもともと薬となる動植物が生息していたことに起因し飛鳥の宮廷行事の一環として雅やかに薬狩りが行われる。西暦612年推古天皇が聖徳太子や伴を率いて、高取の羽田の山野にて薬狩りを行ったと伝えられている。薬狩りとは当時、男性は鹿狩り、女性が薬草狩りを行うことを意味する。
- ③秘伝の処方との合薬により家伝薬がつくられ、修験者によって大和の薬が、全国に広められる。江戸中期頃から奉行の許可を得て置き薬として各地を行商して歩くようになり、この置き薬が、現代の配置販売の始まり。
- ④明治を迎えると、高取地域の狭い土地に合った薬種業が急速に発展し、くすりを得意先に預け置き、次回訪問の時に使用した分だけ代金をいただく「先用後売」という独特な商法を用いた行商が行われるようになった。
- ⑤大正期には、高取薬業会が設立され、県の重要産業に指定され、製薬業、配置販売業が活況を呈するほど成長を遂げた。

【想定されるストーリーの要素】

- ・日本三台山城の一つ「高取山城跡」（「日本のマチュピチュ」とも呼ばれるようになった竹田城よりも実は美しいとされる）、その周辺で今もなお続く薬草刈り（草取りや山菜採りなど）
- ・紀路（きじ）めぐり（今の国道1号線）

渡来人が通ったとされる紀路が今もなお残っている。(和歌山の湊から高取町を通過し、奈良県桜井市までつづく道(現在の国道1号線))

現代に例えると湊は横浜、桜井市は東京のような場所をさし、高取は代官山のような先進的でオシャレなまちをイメージできる。

- ・外国人と日本人が混血してできた顔であり、今の日本人の顔ともいえる(高取人は日本のふるさとの顔)

3-① 情報発信

- ・くすりの町としての情報発信は不足気味である。受け入れ体制が整っていないことが現状の課題であり、まずは、既存の取り組みを整理する中で、まちの方向性・ストーリーを共有し、コンセプトを設計することで、既存の取り組みを一体的に強化していきたい考え。

3-② 人材育成・普及啓発・継承事業

○たかとり城まつり(主催:たかとり城まつり実行委員会・高取町観光協会)

- ・高取城跡や城下町である旧土佐町界隈で時代行列、火縄銃の実演、和太鼓の演奏、御城下踊りとフリーマーケットなど、様々なイベントが行われている。

○高取町 土佐街なみ「町家の雛めぐり」(主催:天の川実行委員会、共催:NPO法人 住民の力)
2007年から、始まった「町家の雛めぐり」は、今回で8回目。町あげてのイベントに発展し、今年は、約百軒のお雛さんを町並みのあちらこちらで展示している。

展示箇所は、民家の玄関や、縁側、店先など、現在実際に生活されているご家庭に展示しており、基本的に、そのご家庭に縁のあるお雛様で、飾り付けも、そちらの方々で行われている。また、雛人形を飾っているお宅の住民さんとの会話を楽しむことができる“まちなか散歩”イベント。3月に1カ月間開催し、2万人の来場者がまちに訪れえる。

○高取ボランティアガイドの会

会員数は25名(平成26年)。2003年8月7日に発足し、活動内容は町内の観光ガイド、イベントの企画・主催、地域文化財の研究などを行っている。古墳の草刈りも実施。

「町家の雛めぐり」にもボランティアガイドとして参加。

○以前に、歴史関係のシンポジウム(500人規模)を開催したことがある。

3-③ 環境整備

- ・ハード整備、サイン整備などは特に行っていない。整備することで、昔ながらの原風景が壊されとの懸念はある。必要最低限のサイン整備、ネットによる情報発信が必要と考えている。
- ・葉資料館があるが、廃館状態である。

4. その他

- ・樫原市、明日香村、高取町で、世界文化遺産登録と目指していたが、財政難のため断念した。
- ・日本一の山城跡、自然豊かな原風景、山菜やタケノコ、葉草取り、カブトムシやくわがたりなど若い人を中心にうまく情報発信していきたい。

(8) 奈良県橿原市、明日香村

『飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群』

○地域の概要

<橿原市>

- ・橿原市は、奈良県のほぼ中央に位置し、面積は39.52km²で、万葉の時代を偲ばせる大和三山がそびえ、その中央には約1300年前にわが国初の首都であった藤原宮跡がある。
- ・アクセスは自動車では阪神高速道路松原線から三原 JCT、葛城 IC、高田バイパスを経由し、橿原市内へ約1時間、鉄道ではJR 鶴橋駅を経由し、近鉄鶴橋駅から近鉄大八木駅まで約50分。
- ・人口124,887人、世帯数 51,915世帯（平成26年10月1日現在（住民基本台帳））



出典：橿原市ホームページ

<明日香村>

- ・明日香村は、奈良県のほぼ中央に位置し、面積は24.08km²で、村全域にわたり、古墳時代後期から飛鳥時代の古墳が多数分布しており、村全体が古都保存法の歴史的風土保存の対象となっている。
- ・人口5,782人、世帯数2,170世帯（平成27年1月1日現在（住民基本台帳））



出典：明日香村資料『明日香村のすがた』

○地域の歴史・文化財等の概要

- ・明日香村・橿原市は、6世紀末から8世紀はじめにかけて、律令制による天皇を中心とした統一国家「日本国」が誕生した土地であり、当時の様子を伺うことができる数多くの遺跡が、良好な状態で特定の地域内に面的に密集している。
- ・西暦592年、推古天皇が即位し、その後飛鳥京（現在の明日香村一体に築かれたと想定されている）及び藤原京（現在の橿原市内）が築かれることとなる。西暦710年に都が平城京に移されるまでの約120年間を「飛鳥時代」と呼んでいる。この時代は、日本国周辺では中国に建国された強大な国家、隋・唐を中心に東アジア文化圏が形成されていた。わが国も東アジア文化圏の一国として、中国（隋、唐）、朝鮮半島（高句麗、百済、新羅）との間で様々な交流を行っていた。その中でわが国は、先進の政治・宗教・文化技術を導入し、わが国の伝統的な政治・宗教・文化・技術と融合、発展させることで、独自の政治制度や文化の基礎を作り上げた。
- ・同時代には、日本史上初めて律と令がそろって成立した本格的な律令である「大宝律令」が制定され、わが国で初めて「日本」の国号が定められたほか、日本最古とされている貨幣が流通するなど、「日本のはじまりの地」とされている。
- ・また、同時代には「古事記」や「日本書紀」などの歴史書が多く記されているほか、日本文化の源流である「万葉集」においても、当地を題材とした多くの歌が詠まれている。
- ・橿原市には、万葉の時代を偲ばせる大和三山がそびえ、その中央には約1300年前にわが国初の首都であった藤原宮跡がある。市内には歴史的文化遗产が点在している。

・藤原京は、中国の都城制を模して造られた日本初の本格的な都城。その大きさは、東西方向約5.3km、南北方向4.8kmで、平城京、平安京をしのぐ古代最大の都である。藤原京時代には大宝律令が制定され、貨幣も発行された。初めて「日本」という国号を使用したのも藤原京を発した遣唐使だった。

○その他地域の情報

・飛鳥・奈良の宮都とその関連資産群…ユネスコ世界遺産暫定一覧表に掲載されており、これらの文化財が位置する明日香村・橿原市では世界遺産登録に向けた様々な取組が進められている。

1. 文化財のグルーピング

〈明日香村・橿原市〉

橿原市と明日香村、桜井市、奈良県が連携して提案した「飛鳥・藤原宮都とその関連資産群」が、平成19年1月30日にユネスコ世界遺産暫定一覧表に掲載された。それに合わせ構成遺産候補が下記のようにグルーピングされている。

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○飛鳥水落遺跡</p> <p>水落遺跡は、7世紀後半の建物の礎石群のある方形基壇を持つ遺跡である。この基壇の上に、方四間総柱（柱芯一辺11メートル）の楼閣が建っていたものと見られる。</p> <p>○飛鳥板蓋宮</p> <p>「大化の改新」の幕開けとなる蘇我入鹿の中大兄皇子等による暗殺の舞台となった。</p> <p>○藤原京</p> <p>藤原京は、中国の都城制を模して造られた日本初の本格的な都城。その大きさは、東西方向約5.3km、南北方向4.8kmで、平城京、平安京をしのぐ古代最大の都である。藤原京時代には大宝律令が制定され、貨幣も発行された。初めて「日本」という国号を使用したのも藤原京を発した遣唐使だった。</p> <p>○藤原宮跡</p> <p>藤原京の中心施設である藤原宮のあったところ。藤原宮は一辺約1kmの中に、大極殿や朝堂院といった国をあげての儀式や政治を行う施設や天皇の住まいである内裏などがあり、現在の皇居と国会議事堂、霞ヶ関の官庁街を合わせた性格を持っていた。</p> <div data-bbox="523 1512 978 1832" data-label="Image"> </div> <p>出典：WEBサイト『奈良文化研究所』</p>	<p>律令国家の中核機構の形成過程</p>

○藤原京跡朱雀大路跡

朱雀大路（すざくおおじ）は、藤原京を東西に分ける幅24mの道路である。儀礼を行うだけでなく、藤原京の呼び方の基準となった。



出典：橿原市『藤原宮跡から天香山エリアマップ』

○飛鳥寺跡

飛鳥時代、飛鳥地方における最大の寺院。

○橘寺境内

創建の事情や年代については明確ではない。聖徳太子伝暦によれば太子がこの地で勝鬘経（しょうまんきょう）を講ぜられたとき、瑞祥があり、それによって仏堂を建立したとある。

○本薬師寺跡

天武天皇が皇后（後の持統天皇）の病気平癒を祈って建立した寺院である。

○大官大寺跡

7世紀後半～末にかけて国家の経営する大寺として、雄姿を誇り朱鳥元年（686年）には天武天皇の病気回復の祈願が行われ、持統天皇の時梵鐘を鋳造、文武天皇の時には九重塔や金堂が完成し飛鳥の大寺院の一つとして荘厳をきわめたといわれる。

国家宗教としての
 仏教寺院の成立

<p>○石舞台古墳 飛鳥所在古墳の代名詞になる著名な古墳である。</p> <p>○菖蒲池古墳 藤原京朱雀大路の南延長上に築かれた7世紀中頃の古墳である。埋葬施設は、両袖式の横穴式石室で、壁面には漆喰（しっくい）が塗られていた。</p> <p>○牽牛子塚古墳 またの名をあさがおづかともいう。貝吹山（210メートル）を最高点とする通称真弓丘と呼ばれる低い丘陵の一面にあり、檜前の皇陵、古墳群を望見できる景勝の地に位置する。</p> <p>○高松塚古墳 二段築成の円墳であり、昭和47年3月21日に極彩色の壁画が発見された。凝灰岩の切石をもって築造されている。石槨内は漆喰が全面に塗られ、壁面には彩色壁画が描かれ、漆塗木棺が埋納されていた。出土遺物として、金銅装棺金具、海獣葡萄鏡一面、銀装大刀外装具などが検出された。特に葡萄鏡は中国の西安市の唐墓から出土した鏡と同じ鑄型で製作された同範鏡であることが分かり注目される。壁画は、中国の伝統的な思想を背景にしたものであり、高句麗、唐の影響が顕著に認められている。</p>		<p>律令による墓制の変化、 律令国家形成の主人公の 墳墓</p>
<p>2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて</p>		
<p>飛鳥時代の遺跡が数多く発掘されている明日香村・橿原市は、大宝律令の制定、日本初の都城の建設などが行われ、「日本のはじまりの地」されている。このような時代の背景には、力強く活躍した4人の女帝や日本初の尼僧など数多くの女性リーダーの存在がある。</p> <p>昨今の日本は、他国から「女性の地位が低い遅れた国」として見られることもあり、女性登用促進が謳われているが、史上には力強い女性リーダーの活躍していた時代があった。女性登用に関する昨今の状況も踏まえ、現代人にとって見本となるような「国を司った女性たち」に関するストーリーを描くことが考えられる。</p> <p>また、この時代に執筆された万葉集には、皇女等の女性たちの結ばれない恋や、三角関係に関する歌も残されており、現代人も楽しめる「異性絡みの複雑な人間模様」も盛り込んでストーリー化できる可能性がある。</p> <p>さらに、飛鳥時代の歴史をテーマとした演劇を制作し、公演を行っている村民による劇団「時空」が活動しており、史跡を巡るだけでなく、演劇という形でこれらのストーリーを発信できる可能性</p>		

がある。

【参考：当時代に活躍した女性たち】

①善信尼（わが国最初の出家尼僧）

584年に11歳で、渡来系氏族の娘である禪蔵尼・恵善尼とともに出家した。

しかし、仏教の弾圧を受けている時代でもあり、正式に尼になるために、百済に渡って得度、帰国後は桜井寺（明日香村豊浦付近）に居住した。日本で最初に出家した尼僧で、仏教興隆にも尽力した。古来、女性が神に近いと存在とされていたことから、最初の出家僧は女性尼僧であった。

【関連する資産】都塚古墳・細川谷古墳群・欽明天皇陵・於美阿志神社・檜前大田遺跡・真弓罐子塚古墳・豊浦寺・飛鳥寺・豊浦寺の仏像

【関連する人物】欽明天皇・蘇我稲目・蘇我堅塩媛・穴穂部間人皇女・物部尾興・聖明王・東漢氏・司馬達筆・鞍作鳥・恵使・禪蔵尼・恵善尼

②推古天皇（わが国最初の女性天皇）

在位592～628年。蘇我氏の後盾を得て、飛鳥最初の女帝として即位した。その後30数年の長期間安定政権を維持し、聖徳太子・蘇我馬子を補佐官として能力を発揮させながら、数々の政策を行った。

【関連する資産】豊浦宮・小墾田宮・島庄遺跡・飛鳥寺・飛鳥大仏・豊浦寺・山田道・石舞台古墳

【関連する人物】聖徳太子・蘇我馬子・鞍作鳥・蘇我堅塩媛・穴穂部間人皇女・蜷帝・小野妹子

③皇極（斉明）天皇（変革の時代を生きた女皇）

在位642～645年、655～661年。紆明天皇の皇后で、天智・天武天皇の母。

シャーマニズム（巫師・祈祷師崇拜）的な性格を持ちながらも、乙巳の変、大化改新、白村江の戦いなどの時代の変換点を経験することによって、飛鳥の国づくりのために大規模な改革を実践した。この時代は、隣接する韓半島で百済・高句麗が滅び、統一新羅が出現。この動乱の東アジア世界の中、我が国も新しい国家体制づくりを急ぎ、唐や韓半島を意識しながら急激な改革を行う。

【関連する資産】飛鳥宮跡（板蓋宮・後岡本宮）・甘樫丘・飛鳥寺西・入鹿首塚・水落遺跡・石神遺跡・須弥山石・石人像・酒船石遺跡・亀形石・猿石・飛鳥京跡苑池稲淵宮殿跡・牽牛子塚古墳・越塚御門古墳・南無天踊・飛鳥蹴鞠・南淵請安先生の墓

【関連する人物】中大兄皇子・中臣鎌足・南淵請安・間人皇女・大田皇女

④持統天皇（夫・天武天皇と共に日本最初の都城・藤原京を作る）

在位686～697年。古代最大の内乱であった壬申の乱を経験し、（夫である）天武天皇と共に、夫婦で国づくりに励んだ。そして、天武天皇の意志を受け継ぎ、日本最初の都城を作りあげ、「日本国」が誕生した。

【関連する資産】飛鳥宮跡・大極殿・飛鳥池工房・富本銭・天皇木簡・天武持統陵・藤原宮跡・藤原京跡・大官大寺・本薬師寺・大和三山・和同開珎・中尾山古墳キトラ古墳・高松塚古墳・壁画・芋峠

【関連する人物】天武天皇・文武天皇・大津皇子・草壁皇子・藤原不比等

⑤万葉集の歌に登場する女性たち

額田王……皇極朝から藤原宮前半に活躍した万葉歌人。宮廷後宮に属したと考えられる。中大兄皇子と大海人皇子との三角関係に関する歌が残されている。この三者の恋争いを、藤原京を取り囲む大和三山（天香久山、畝傍山、耳成山）に例えたとされる歌が詠まれている。

大伯皇女…天武天皇と大田皇女の娘。斎宮に遣わされていたが、大津皇子の事件により明日香へと戻ってきた。弟の大津を偲んで詠んだ歌が有名。

但馬皇女…明日香時代後半に活躍した。高市皇子の後であり、世間から激しく非難されながらも、穂積皇子への一途な恋を貫いたことが万葉集の歌より読み取れる。

【関連する資産】甘樫丘・大和三山・大原など飛鳥藤原の地域。万葉歌碑

【関連する人物】中大兄皇子・大海人皇子・大津皇子・柿本人麻呂

3-① 情報発信

【橿原市、明日香村共通】

- ・各種パンフレットの発行：近隣市町村（橿原市、明日香村、桜井市）が連携して発行している。

【橿原市】

- ・奈良文化財研究所藤原宮跡資料室での最新の出土品等の展示及び展示物の多言語化（橿原市）

【明日香村】

- ・タブレット型端末機の貸し出し：明日香の見どころや食事処、トイレや休憩所、レンタサイクル等のほか、各施設のバリアフリー情報や通行注意箇所まで案内している。現段階は試験運用中。
- ・欧州での飛鳥展/飛鳥の映像・アート展の開催：飛鳥の映像・芸術・芸能・アート、景観、文化、その他活動をヨーロッパ（英・仏・伊など）にむけて発信を検討している。
- ・ポータルサイトの多言語化を検討している。

3-② 人材育成・普及啓発・継承事業

【橿原市】

- ・ホテイアオイの植栽活動（NPO法人城殿町霜月会）
- ・本薬師寺まつりの推進（城殿町自治会）
- ・香久山を愛する会（地域住民による団体）による景観維持活動
- ・藤原旧跡整備協力委員会（地域団体）による各種取組

【明日香村】

- ・各種講演会の開催

現在、主に世界遺産登録に向け、明日香村の文化財の価値を広く知ってもらうために、県内及び首都圏等で講演会を実施している。

- ・あすか塾

有識者等による明日香村の歴史、史跡に関するセミナー。2ヶ月に1回程度の頻度で開催中。

- ・飛鳥学検定

古都飛鳥保存財団が実施。

- ・明日香村観光ボランティアガイド育成支援

観光ボランティアガイドのスキルアップを目的に実施。

- ・劇団「時空」

台本、衣装、舞台道具の作成を含め、村民が中心となって行っている。

- ・飛鳥時代のバイブル「飛鳥物語」の発刊

飛鳥の歴史と文化を時代とテーマとに整理し、4～6部作の図書として出版することを検討している。

3-③ 環境整備

【橿原市】

- ・ 藤原宮跡花園植栽事業
- ・ 本薬師寺跡花の植栽事業
- ・ 遺構表示サインの設置・充実（藤原宮朝堂院四門）
- ・ 道路案内板設置事業：4ヶ国語対応、周遊コースを創出

【明日香村】

- ・ 飛鳥 超小型モビリティ レンタルサービス MICHIMO
二人乗り自動車の貸し出し（要普通自動車免許）。レンタル料1日8,000円。
- ・ レンタサイクル
近鉄飛鳥駅、岡寺駅、橿原神宮前駅など7箇所にレンタサイクル貸出所を設置。
- ・ 現地解説板、誘導案内板の設置
- ・ コンピューターグラフィックスによる遺産の展示（取組中）
明日香村の遺跡は、地中に埋もれていることが多いため、コンピューターグラフィックスを用いて展示を行う。

4. その他

- ・ 飛鳥時代の遺跡は現在の明日香村・橿原市を中心とする一帯に分布しており、両市が連携してストーリーを設定し、取り組みを進めていくことが有効と考えられる。
- ・ 飛鳥地域において体験交流プログラムと民家ステイによる国内教育旅行及びインバウンド事業における地域活性化に取り組む団体「飛鳥ニューツーリズム協議会」がある。
- ・ 地域資源活用型商品開発
蘇（牛乳を特殊な方法で煮詰めて作る古代のチーズ）を用いた商品開発、「飛鳥物語」の歴史的史実を商品名とした商品の開発に取り組んでいる。（ニューツーリズム協議会）

(9) 岡山県備前市

『日本最古の庶民教育学校「閑谷学校」』

○地域の概要

- ・岡山県備前氏は岡山県南東部に位置し、兵庫県に隣接している。
- ・2005年3月22日に備前市、日生町、吉永町が合併し、新備前市が誕生した。
- ・市へのアクセスは車では岡山ブルーライン備前インターより国道250号経由し約15分、鉄道ではJR岡山駅からJR赤穂線西片上駅まで約1時間である。



出典：備前市ホームページ

○地域の歴史・文化財等の概要

- ・備前焼と閑谷（しずたに）学校で有名な備前エリアは、青く輝く瀬戸内海と小高い山々に囲まれた文化都市である。
- ・備前焼の里、伊部（いんべ）には、緑の山裾に独特の赤れんがの煙突がみえる家並みがあり、落ち着いた味わいの作品を出窓のようなウインドーに並べる昔ながらの店が連なっている。
- ・我が国最初の庶民の学校で、国宝に指定されている閑谷学校や瀬戸内海国立公園夕立受山、国指定重要文化財の大滝山福生寺、真光寺、正楽寺などがある。
- ・日生エリアは、兵庫県赤穂市と接した岡山県の東の玄関口となっている。
- ・日生諸島最大の島で自然観察の宝庫となっている鹿久居島や魚つり・みかん狩りで賑う頭島、天然の良港を有する大多府島など、観光・レジャーのまちとしても注目を集めている。
- ・吉永エリアは名所として、町の中部に岡山藩主の墓地である「和意谷」があり、北部には「八塔寺ふるさと村」がある。
- ・平成 21 年には伊部南大窯跡が市指定「備前西大窯跡」、「備前北大窯跡」とともに「名称変更と追加指定」を受け、国指定史跡「備前陶器窯跡」となった。
- ・備前市には現在113の指定文化財がある。
- ・閑谷学校を世界遺産に登録しようという働きがある。

○その他地域の情報

- ・姉妹都市：クレア&ギルバートバレー町（オーストラリア南オーストラリア州）

1. 文化財のグルーピング

- ・備前市では、「備前市歴史文化基本構想」を平成26年3月に策定した。その中で、時代ごとのグルーピングは行われていないが、下記テーマごとにグルーピングがなされている。
- ・文化財保護法の指定・未指定に関わらず、「地域文化資源」として整理されている。w
- ・テーマによる「まとまり」のため、各資源は一定の場所ではなく、市域に広がっている。
 - ①学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産。
 - ②備前焼を生み、栄えるまち。
 - ③近代漁業発祥のまちと食文化。
 - ④中世山岳仏教の栄華とふるさとの村の景観

- ⑤耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち
- ⑥映画と文学、心象風景の残るふるさと
- ⑦交流と流通の要となった地

文化財名・概要

○閑谷学校

寛文 10(1670)年、池田光政が木谷村に学校をつくるよう津田永忠に命じたことによってその歴史が始まる。

日本最古の庶民教育のための学校であり、300年もの歴史を持つ。武士だけでなく庶民や、他藩の子供たちの教育にも広く門を開いた。



出典：WEBサイト『特別史跡閑谷学校』

○閑谷焼窯跡

5万枚もの講堂の瓦を焼いたとされる窯。瓦焼成後は、宝永7(1710)年頃まで、閑谷学校の祭器や細工物など製造する藩の窯業試験場的な場であったという。

○鏡石神社

池田輝政らの遺骨などが仮安置された神社。

○井田跡

中国周代の税制度を具現化したといわれる。広大な土地を利用して、下井田、上井田が開発された。

○岡山藩主池田家墓所(和意谷墓所)

寛文7(1667)年、池田家の菩提寺、京都花園妙心寺護国院の炎上をきっかけとして光政が津田永忠に命じて作ったのが和意谷の池田家墓所である。京都から海路で運ばれた池田輝政・利隆らの遺骸は片上の津から鏡石神社に運ばれ仮安置されたと伝わる。



出典：WEBサイト『おかやま旅ネット』

テーマ・時代

学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産

<p>○大多府漁港元禄防波堤 元禄11(1698)年、「大多府に港を整備せよ」との藩命により津田永忠は延長約130m、幅6m、高さ5m の石積みの防波堤を大多府島に作った。わが国で現存する数少ない明治以前の防波堤の中で最も優れた構造物のひとつであるという評価がされている。</p> <p>○片上港 京都から池田輝政らの遺骸を陸へ揚げた港。</p>	
<p>○「備前陶器窯跡」、「備前熊山古窯跡群」「下山龍王山古窯跡群」、「天保窯」 備前焼を生産した遺跡群（窯）</p> <p>○伊部の街並 窯元、作家が軒を連ね、登窯の煙突が独特の景観をみせる</p> <p>○近備前焼を使った塀や土留め 近世の山陽道の面影を残す伊部の東西通りと点在する</p> <p>○医王山、不老山、榎原山など古窯が点在する山々に囲まれた伊部</p> <p>○昭和43年岡山県の行政発掘の第1号が行われた不老山東口・西口窯と大ヶ池を縦断する山陽新幹線の高架</p> <p>○天津神社 陶祖を祀る忌部神社がある宮山からの眺望と備前焼の屋根瓦、参道などがある。</p> <p>○長法寺 備前焼作家の檀家が多い。</p> <p>○窯業を母体として成立した耐火煉瓦工業の近代化遺産群と煙突群</p> <p>○備前焼の積出拠点とされる浦伊部の来住家と市指定史跡「伝太閤門跡」、妙閑寺</p>	<p>備前焼を生み、栄えるまち</p>
<p>○山上伽藍八塔寺の旧跡 八塔寺（はっとうじ）は、岡山県備前市吉永町加賀美にある天台宗の寺院である。山上全体が、ふるさと村（岡山県）として登録され、保存・整備が行なわれている。</p> <p>○中世山岳仏教 備前市では、山岳仏教が盛んだった。 「石小(子)詰の塚」鎌倉時代の石造、行者が祈念し、生きながら成仏したと伝えられている五輪塔である。</p> <p>○三国郵便局の局舎 昭和12年に建てられたこの建物は木造の局舎としては数少ない戦前築の現役郵便局。</p>	<p>中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観</p>

<p>○三石耐火煉瓦株式会社の煙突と街並</p> <p>○昭和 12 年建築の三石小学校講堂</p> <p>○三石金剛川拱渠をはじめとした旧山陽鉄道(現山陽本線)のアーチ</p> <p>○深井鉄工所、三石耐火煉瓦株式会社事務棟へ続く建物群</p>	<p>耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち</p>
<p>○長縄手遺跡 備前緑陽高等学校の敷地に広がる約4000年前の遺跡。 矢じり、ナイフのような石器も出土している。</p> <p>○丸山古墳、天神山古墳 西鶴山の低丘陵上に広がる古墳群</p> <p>○千軒遺跡 岡山最大の島鹿久居島にあり、入江近辺から鎌倉・平安時代の陶片が出土している。</p> <p>○山城群 三石城跡、富田松山城跡(片上)、香登城跡、医王山城跡(吉永)などの山城が数多く残る。</p> <p>○浦伊部来住家 備前焼の積出拠点とされる。</p> <p>○伝太閤門跡 享保年間(1716～1735)に書かれた「来住権右衛門口上覺」によれば、羽柴秀吉が備中高松攻め(1582)の時、浦伊部の豪商来住法悦が、帰途秀吉を迎えるために屋敷に御殿と門を新造したが、秀吉は本能寺の変(1582)のため、立ち寄らなかったとある。その後、この御殿は妙圀時に寄進されたと同古文書は伝えている。</p> <p>○鶴島 明治政府のキリシタン禁令により117名が流罪となった地</p>	<p>交流と流通の要となった地</p>

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

- ・「備前市歴史文化基本構想」で示されている7つのテーマが、ストーリーとしての位置づけとなっているが、地域への定着は進んでいない。
- ・「備前市歴史文化基本構想」を策定する段階で、有識者、市民、学芸員などによる委員会を設置し、テーマ及びグルーピングに関する合意形成を図っているが、地域への定着はこれからの課題。
- ・教育の現場「旧閑谷学校」、釉薬を使わない「備前焼」などは、地域の文化的資源として、備前市のみならず、岡山県内における認知度(定着)は高い。
- ・「旧閑谷学校」では、論語教育を継続して続けており、論語体験など、研修・教育の場としての活用は広がっている。

3-① 情報発信
<ul style="list-style-type: none"> ・「備前市歴史文化基本構想」に位置付けたテーマに関する情報発信は不足しており、広く周知されているとは言えない。 ・「旧閑谷学校」に関してはHPを立ち上げるなど、情報発信に努めている。 ・FACEBOOKページもあるが、「いいね」が111件に留まっている。 ・閑谷かわら版（概ね月1回）の発行や、閑谷学校研究（年1回発行）の作成などを行っている。ホームページから閲覧もできる。 ・ウェブサイト『特別史跡 旧閑谷学校』では中国語のページを作成している。
3-② 人材育成・普及啓発・継承事業
<ul style="list-style-type: none"> ・「旧閑谷学校」では、岡山県青少年教育センターと公益財団法人「特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会」が、研修事業等を担っている。 ・特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会では、「閑谷学校 あいうえお論語（210円）」を販売。観光客に売行きは好調。 ・ELTを各学校に最低1名配置する事を進めており、地域で英会話できる環境を創ることで、地域一帯で英語を話せる環境を創造したい。その上で、地域住民一人一人が、地域の誇りとして、情報発信していく絵雨量にして行きたいを考えている。 ・ボランティアガイドの高齢化が進み、人数的にも不足しているため、新たな人材育成が必要。
3-③ 環境整備
<ul style="list-style-type: none"> ・「旧閑谷学校」では、和気閑谷高等学校の生徒がボランティアガイドなどを務め、独自に外国人向け（英語）のパワーポイントを作成、タブレットによる紹介などを行っている。 ・看板などにおける外国語による説明などは無く、今後の課題となっている。 ・「旧閑谷学校」へは、JR吉永駅、伊部駅（備前焼の中心地）などが最寄りとなるが、バス路線が無く（少なく）、公共交通でのアクセスが悪い。 ・ただし、「旧閑谷学校」の持つ空間は、あまり便利で気軽に立ち寄れるよりも、ある程度の苦労を経た方が良いとも思われる。
4. その他
<ul style="list-style-type: none"> ・教育遺産は他の地域にも多く見られるので、差別化が難しい。地域のまとまりよりも、シリアル型でストーリーを構築する事も考えられる。 ・テーマ設定によりツアーが組めそうなので、ストーリーを創るのではなく、ストーリーが面白いので、人が集まる、人が回遊するという視点が必要。 ・石田光正が岡山藩主池田家の命を受けて墓地候補を探す中で、この地に「閑谷学校」を開校。引き継いだ津田永忠が、後世に残すべき場所として、簡単に壊されないよう優れた建築物、石垣を築いた。 ・旧閑谷学校は地域の誇りとなっているが、その精神が受け継がれることによる効果（Uターン、新たな取組み、昔から変わらない風土など）はあまり見られない。

(10) 熊本県人吉球磨地域

『相良氏700年の歴史に由来する数々の文化遺産と最高の鉄道技術を駆使した肥薩線』

○地域の概要

- ・人吉球磨地域は、熊本県の南部に位置する10市町村で、周囲を険しい山々に囲まれた盆地となっている。
- ・中心となる人吉市へのアクセスは、自動車では福岡 I C から人吉 I C まで約2時間、鹿児島空港から約1時間、鉄道ではJR博多駅から新幹線と特急を乗り継ぎ人吉駅下車で、約2時間20分である。



出典：熊本県 県南広域本部『管内マップ』

○地域の歴史・文化財等の概要

- ・この地方に人が住みはじめた歴史は古く、遺跡や遺物などから、すでに旧石器時代（紀元前2万6千年前ごろ）には人々が生活していたことが判明している。
- ・鎌倉時代初頭の建久4年（1193年）に、鎌倉幕府の地頭として遠州（今の静岡県）から相良氏が入国した。これが、以後明治維新までの約700年間、この地の領主として存続した相良氏の始まりである。
- ・相良氏は、幾多の戦乱を経つつも、明治維新までの約700年間、この地方の大名として一貫してこの地を治めてきた。
- ・鎌倉時代以来、大名として続いた“家”は、全国でも薩摩の島津氏や佐竹氏などわずかしかな存在しない。そのため、本市は県下の9割の国・県指定の文化財が集中するなど、古社寺の宝庫であり、国宝の青井阿蘇神社や国指定史跡の人吉城跡をはじめ、相良700年の歴史を物語る数多くの重要文化財が存在する。
- ・市内には相良氏に関する神社・仏閣などの史跡や古い町並みなどが点在している。特に、中心部は古くからの城下町の町並みが残っており、小京都と呼ばれる。
- ・人吉市は小学校の児童を対象に、校区ごとに文化財を紹介する人吉の文化財地図を作成し、配布し

ている。また、人吉温泉観光協議会では「人吉城下町体験タウンリズム」などの歴史資源を生かした取り組みを行っている。

- ・人吉市は明治維新以後も相良氏の繁栄を引き継いでいく。その中心となったのが現在の鉄道「肥薩線」である（元は鹿児島本線の一つ）。
- ・肥薩線は、明治42年（1909年）に全線開通を迎え、当時の我が国における最高の鉄道・土木技術を駆使して建造された。その施設の多くが、100年以上を経た現在においてもなお開業当初の姿をとどめながら活躍しているなど、まさに「生きた鉄道博物館」として、鉄道史上において特筆すべき鉄道路線だと言える。この肥薩線は世界遺産への登録を目指しており、「肥薩線を未来へつなぐ協議会」等を設置し、イベントや講演会を行い、鉄道市場の価値をアピールしている。
- ・肥薩線が栄えた理由

人吉の雑木が日本の近代化において重要な役割を持っていた。雑木は細くて頑丈なため、坑木として筑豊の炭鉱に使われていた。筑豊をはじめ、石炭は日本の近代化・工業化を支え、世界と渡り合う力の源となった。その石炭の産出に、人吉から輸送された坑木が役立っていた。

ただし、山間部の鉄道は大量輸送に向かず、速度も遅い。そこで1927(昭和2)年までに、海側に線路が敷かれた。現在の鹿児島本線(川内～鹿児島間)と肥薩おれんじ鉄道(八代～川内間)だ。海側のルートが開通したため、人吉ルートは肥薩線の名称に改められた。その後、隼人～鹿児島間が日豊本線となり、現在の姿になっている。鹿児島と八代を結ぶ主要ルートは変わったが、坑木は人吉産であることから、肥薩線となった後も重要な路線といえた。

○その他地域の情報

- ・全国唯一、伝統建築物に関する専門課程を有する球磨工業高校との連携体制を構築し、域内文化遺産の保存・活用を推進している。

1. 文化財のグルーピング

- ・以下の4つのテーマが設定されており、それぞれに文化財がグルーピングされている。

- テーマ1 「相良 700 年の歴史の風格を感じさせる古社寺群と史跡」
- テーマ2 「“ほとけの里” の仏教美術の精華」
- テーマ3 「相良 700 年の歴史のもとで根付き継承された無形の文化」
- テーマ4 「100 年レール肥薩線と近代鉄道遺産」

文化財名・概要	テーマ・時代
<p>○国宝青井阿蘇神社を頂点とする全国的に貴重な古社寺群</p> <p>人吉球磨地域は、熊本県内の国・県指定の古社寺の実に8割以上が集中。しかも、その多くが中世に遡る茅葺の古社寺で、「見世棚造」の本殿や「出桁造」の仏堂といった古い建築様式を残す、全国的にも特異な性格を持つ。</p> <p>特に青井阿蘇神社は、建造物で日本最南端の国宝であり、全国唯一社殿すべてが国宝である。</p> <p>○人吉城跡</p>	<p>テーマ1</p> <p>相良700年の歴史の風格を感じさせる古社寺群と史跡</p>



出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』

相良氏の居城であり、球磨川と胸川を堀がわりにした特異の築城と、石垣のはね出しが建築史上珍しい人吉城跡。また、その支城で侍屋敷の地が残り、歴代の上相良氏当主等を埋葬する青蓮寺古塔



出典：人吉市ホームページ

碑群・蓮花寺跡古塔碑群、

下相良氏や統一後の相良氏当主等を埋葬する相良家墓地など、相良700年の歴史を実証する史跡が多数存在している。

○“ほとけの里” 人吉球磨

人吉球磨地域の仏教文化は、鎌倉時代の相良氏以降、外敵から侵略されることなく戦火にさらされることもなかったため、今も多くの仏像美術が残っている、県内の国・県指定の仏像の4割近くがこの地域に集中しており、九州でも質・量ともに類を見ないほどの仏像美術が栄えた“ほとけの里”として知られている。

○人吉球磨の特色ある仏像群

人吉・球磨地域の仏像の特徴は、①平安時代に造られた仏像が多く存在、②在銘の仏像が5件もあること

(九州全体で15件)、③毘沙門天像や四天王像とい



出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』

った天部像と観音像が多

いこと、などが挙げられる。特に地方都市においてこの地域ほど多くの仏像が集中する地域は例がない。明道寺の木造阿弥陀如来及両脇侍像と勝福寺の木造毘沙門天立像は九州でも数少ない在銘の仏像であり、全国の優れた仏像と比べても遜色のない彫刻技術による。

その他の仏教美術も豊富で、一連の仏教史を紐解くことができ、住民の信仰深さをうかがい知ることができる貴重な資料である。

テーマ2

“ほとけの里”の仏教美術
の精華

○信仰・祈りの文化

- ・球磨神楽（平成25年3月国重要無形文化財指定）

「神がかり」的要素を多く含み、他の神楽と違う独特の発展を遂げた神楽。戦国時代の相良家当主による奉納の記



出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』

録が残り、550年以上伝承されてきた。青井阿蘇神社での奉納を皮切りに、郡内43神社の秋の大例祭で奉納されている。

- ・隠れ念仏（禁制下の一方向信仰）
- ・相良三十三観音めぐり

江戸時代中期、人吉藩老家の井口氏により、郡内の観音堂の中から三十三観音が選定される。それ以降、庶民の観音信仰に支えられ、信仰と巡礼を基調とする形が次第に整っていった。現在でも、春と秋の彼岸の際に、近年の健康ブームに合わせた「三十三観音健康ウォークラリー」や、バスで三十三観音を巡るツアーなども開催されている。この春と秋の一斉開帳の際は、観覧者に対し、湯茶のみならず、地元ならではの郷土料理でもてなす「お接待」という習慣があり、各観音堂ごとに工夫を凝らした料理が並べられる。来観者の中には地元の人々との交流とともに「お接待」を楽しみに訪れる方も多い。

②庶民文化

- ・ウンスンカルタ（遊戯法：昭和40年2月県無形民俗文化財指定）

戦国時代末に日本へ伝来したカルタが、江戸時代に改良され普及したのがウンスンカルタ。しかし幕府の禁制によりほとんどの地域で廃れ、現在まで遊び方が伝わるのは当地のみである。

- ・温泉

文献によれば戦国時代には人吉に温泉が存在したとあり、500年以上の歴史を持つ。明治以降、市内各所に旅館・湯治場が設けられて温泉街として発展し、今に続いている。

- ・臼太鼓踊り
- ・棒踊り
- ・虎踊り
- ・球磨地域の民謡（五木の子守歌、球磨の六調子、球磨川舟歌など）

テーマ3

相良700年の歴史のもとで
根付き継承された無形の文化

③焼酎文化

・球磨焼酎

人吉藩による新田開発と豊かな米生産を背景に、江戸時代を通じて球磨焼酎は米を原料として生産され、庶民に広く愛飲された。明治の文豪田山花袋もその芳醇な香りを絶賛した文章を残したほどである。平成7年、国税局の地理的表示の産地指定を受けたことで、球磨焼酎は、スコッチウイスキーと肩を並べる国際的ブランドとなった。現在では28蔵元が各自の銘柄で切磋琢磨しながら、「球磨焼酎」の普及に取り組んでいる。

・球磨拳

球磨焼酎文化の中で、遊ばれる拳遊びの一種。

・太田家住宅（昭和48年2月国重要文化財指定）

江戸末期の曲がりや風の外観を持った農家。倉本屋の屋号で焼酎造りも行っていた。

・石倉

明治30～40年代の鹿児島線（現肥薩線）の建設に伴い、多くの石工と石材が集められた。工事終了後に、仕事のない石工たちが、残った石材を利用して、郡内各地に焼酎の工場や貯蔵庫として、また農業用の穀物貯蔵庫などとして多くの石倉を建設し、現在まで160棟ほどが残っている。一地域だけでこれだけの数が密集しているのは全国的に珍しい。

○江戸時代の寛文5(1665)年に林正盛が球磨川舟運を開拓し、人・物の交流はそれまでの陸路から川へと変遷する。明治に入り、文明開化による西洋文化の流入により、交通手段も大きな転機を迎える。蒸気機関車を用いた鉄道が登場し、移動輸送形態も大きな転機を迎えた。近代産業遺産群でもある肥薩線は、比類なき価値を持つ鉄道遺産であり、圏域の市町村とともに世界遺産登録の推進活動を展開している。

○肥薩線

肥薩線は、熊本県八代市の八代駅から鹿児島県霧島市の隼人駅に至る鉄道路線である。明治42年11月21日、難工事といわれた人吉



出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』

ー吉松間が開通し、現在の肥薩線が開通。人吉駅の石積みの機関車庫、日本で唯一ループ線の中にスイッチバックを併せ持つ大畑駅、アメリカ製の鉄橋、多くの木造駅舎などをはじめ、当時の鉄道・土木技術を駆使して建造されたトンネル、

テーマ 4

100年レイル肥薩線と近代 鉄道遺産

橋梁、築堤などが、集約された形で残る貴重な鉄道路線である。肥薩線の価値は構成施設のほとんどが、当時の姿のまま、今も稼動しながら残っているところにある。

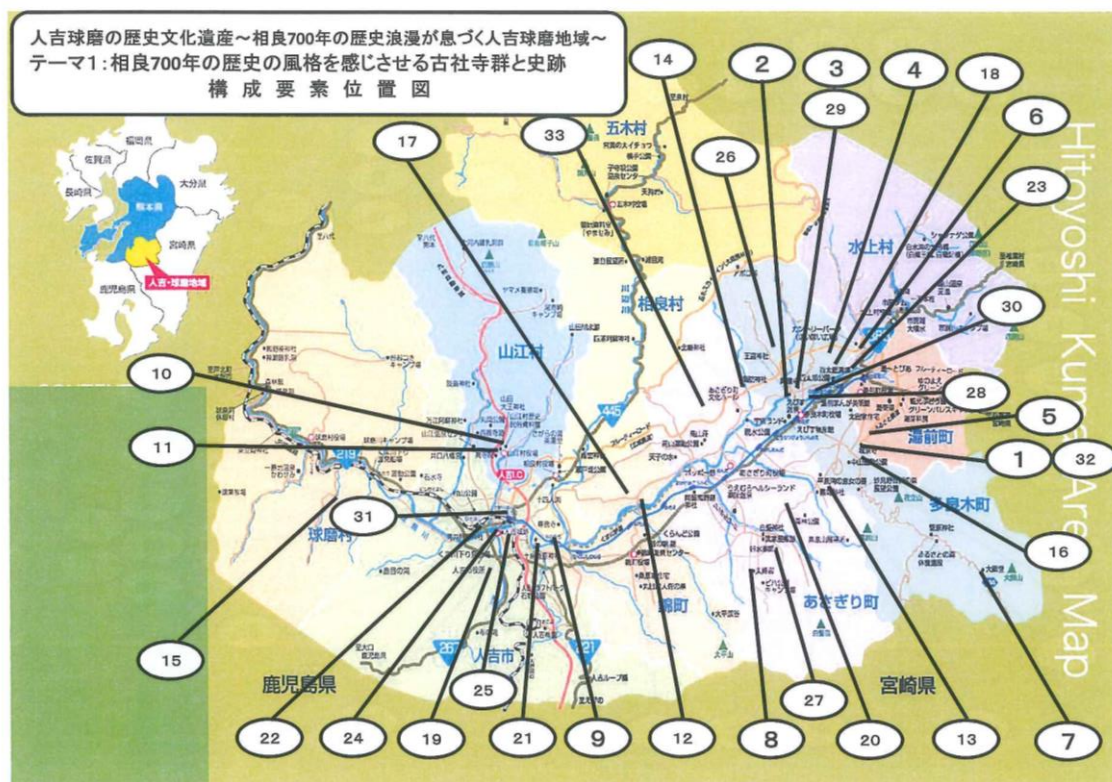
○くま川鉄道

くま川鉄道は、旧鉄道省によって1921(大正10)年に起工し、1923(大正13年)3月30日より営業を開始した旧鉄道省湯前線である。

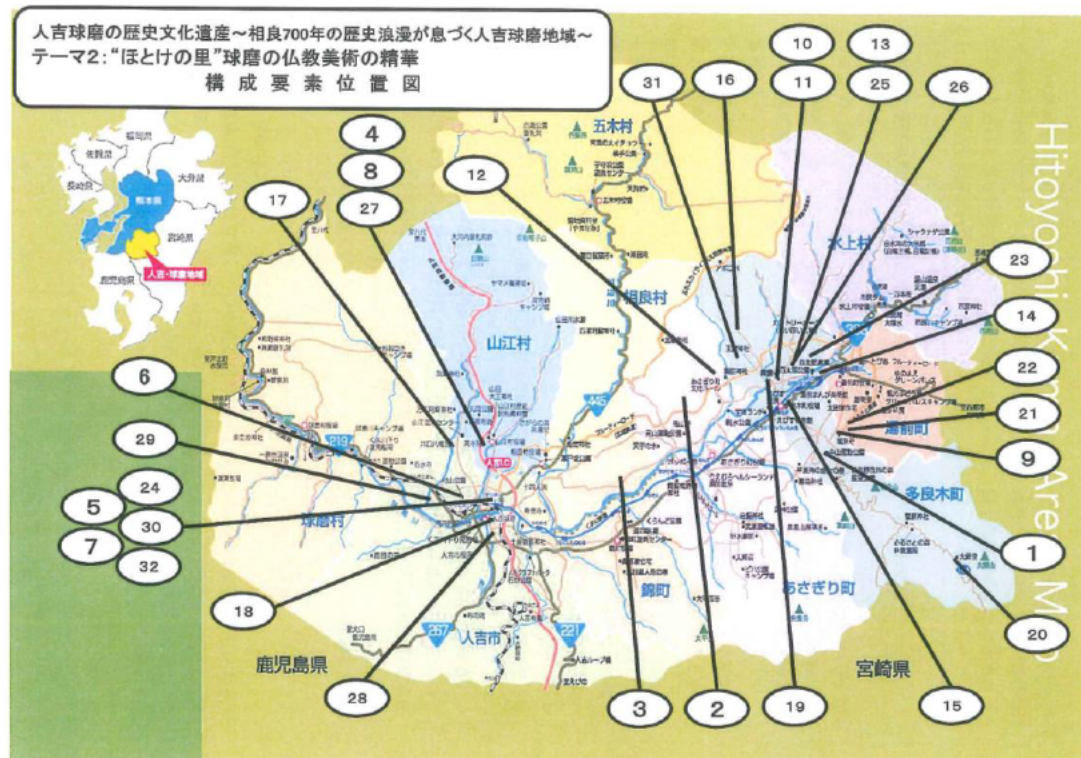


出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』

熊本と鹿児島を結ぶＪＲ肥薩線の人吉駅(くま川鉄道の駅名は人吉温泉駅)を基点とし、湯沢駅を終点とする全長24.9kmの路線であり、1989(平成元)年、10月1日以降、地元市町村等が出資する第3セクター「くま川鉄道株式会社」によって運営されている。旧湯前線開業から90年を迎え、新たな施策として、新型車両の導入や登録有形文化財制度を活用した事業を行っている。



出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』



出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』

2. 関連する文化財群を結びつけるストーリーについて

「相良700年の歴史が今なお息づき独自の伝統と文化が残る人吉球磨」

- ・ 古代・中世の仏像や古社寺等が、今も暮らしの中で息づく場所。訪れた人が、「九州の山奥にこんな場所があったのか」と感動を体感する。それが人吉球磨地域。
- ・ 鎌倉時代から連綿と続いた相良氏の統治の歴史を背景に、700年もの間、この地に残り守られてきた人吉球磨の歴史文化は、いわば日本文化のガラパゴス。
- ・ 建造物で日本最南端の国宝青井阿蘇神社を頂点とする多数の古社寺群や特徴的な仏像群、石塔群、城跡などの相良氏関連の史跡群に加え、米焼酎のルーツである世界ブランド「球磨焼酎」、広域的に展開する「球磨神楽」や「三十三観音めぐり」、SL人吉が走る肥薩線鉄道遺産群等々は、文化的価値とともに観光的魅力にも溢れている。

< 4つのテーマ >

- テーマ1 「相良 700 年の歴史の風格を感じさせる古社寺群と史跡」
- テーマ2 「“ほとけの里” の仏教美術の精華」
- テーマ3 「相良 700 年の歴史のもとで根付き継承された無形の文化」
- テーマ4 「100 年レール肥薩線と近代鉄道遺産」

- ・ 上記のストーリー設定が行われているが、文化的価値の高い古社寺や仏像、球磨焼酎、肥薩線等の文化財が多く点在している一方、活用したい文化財が多すぎて、それらを結び付けるストーリー（相良氏 700 年の歴史）が伝わりにくい。
- ・ 点在する文化遺産をつなぎ合わせる装置として肥薩線やくま川鉄道といった現役の鉄道遺産の活用が考えられる。

3-① 情報発信

- ・人吉球磨地域に関するガイドアプリ（日本語・英語）を開発し世界に配信しており、これまでに3,000件ほどダウンロードされている。今後は多言語に対応したアプリのバージョンアップが課題。
- ・インバウンド関連事業（ビジットジャパン）
- ・その他、ホームページやパンフレット等のコンテンツは様々対応している。



出典：人吉市ホームページ

3-② 人材育成・普及啓発・継承事業

- ・熊本県立美術館において企画展「人吉球磨の歴史と美～ほとけの里と相良の名宝～」を平成27年10月に企画している。
- ・ボランティアガイド研修を実施している。
- ・相良三十三観音めぐりツアー、ウォーキングイベントの実施
- ・人吉球磨ツーリズム（グリーンツーリズム）の推進
- ・副読本「相良700年 歴史と伝統が息づく人吉市」



「お接待」の文化
（出典：熊本県資料『人吉球磨の歴史文化遺産』）

3-③ 環境整備

- ・平成17年12月に人吉城歴史館を整備。人吉球磨地域の文化観光の拠点となっている。
- ・肥薩線やくま川鉄道の歴史的・文化的価値等を学習できるガイドランス施設、人吉球磨地域観光のスタート地点として、鉄道ミュージアムを建設中。（平成27年5月オープン予定）
- ・多言語に対応したサイン看板の更新、トイレ・駐車場等の便益施設の整備が課題である。

4. その他

- ・球磨地域10市町村の文化財担当部局及び企画・観光部局、人吉球磨地域広域行政組合、熊本県文化課、球磨地域振興局による「球磨地域文化財広域連携協議会」を組織し、広域連携による文化財の保護と活用を推進している。この協議会によって平成26年7月に「球磨地域文化財広域連携マスタープラン」が作成されている。
- ・人吉市では、平成26年度中に歴史文化基本構想を策定する予定である。
- ・全国唯一、伝統建築物に関する専門課程を有する球磨工業高校との連携体制を構築し、域内文化遺産の保存・活用を推進している。

Ⅲ 文化財のパッケージ化及びストーリー構築等における課題の整理

1. 実態調査結果のまとめ

地域	文化財のパッケージ化	ストーリーの有無と地域への定着	情報発信	人材育成・普及啓発・継承	環境整備	その他
岡山県総社市	○大きく4つの歴史を有している中で、かつて吉備国の中心地があり、その栄華の跡である多くの文化財が残る地域を、『吉備路』として、文化財のパッケージ化を行っている。	○複数のテーマがある中で、最もわかりやすいものは「桃太郎伝説のモデルとされる吉備津彦命と鬼神・温羅の伝説」である。	○吉備路という地域に関連するパンフレット等は、各種団体が作成し、観光案内所等で配布。	○桃太郎伝説における“鬼”側の伝説として、「温羅伝説」が地域内外で盛り上がりを見せ、市民劇の公演が行われている。 ○総社市の「総社観光大学」の人材育成プログラムにおいて、市内文化財に関する学習・活用するプログラムが設けられている。	○「吉備路」のエリアでは、吉備路を周遊するルートをサイクリングコース（吉備路自転車道）として整備しており、海外向けのガイドブック（WEBサイト）でも紹介されている。	○ストーリーとしては、岡山市と総社市にまたがって関連しているが、情報発信等の取組みはそれぞれで進められている。
愛媛県今治市	○大山祇神社と村上水軍博物館に多くの文化財が保管されているが、パッケージ化はされていない。	○「日本総鎮守とされる大山祇神社及び大三島の歴史」と「瀬戸内海の水軍の歴史」とは、それぞれ独自のストーリーを有しているが、水軍に由来する文化財が神社に奉納されており、密接な関係にある。	○和田竜『村上海賊の娘』などによる水軍ブームが見られ、観光部局や旅行会社によって、水軍関連の文化財・文化施設に関する情報発信、関連する体験ツアー、イベント等が行われ、地域のPRにつながっている。	○村上水軍博物館によって定期的な講演会や市内小中学校の課外学習の受入及び出前授業が行われている	○日本三大潮流のひとつである来島海峡の急流を体験しながら、当時の水軍のストーリーを海の上で体感することができる「来島海峡急流観潮船」が人気となっている。	○水軍の歴史・文化は瀬戸内海の広範囲に至るものであるため、県境、市町村界を越えてそれらをどのように捉える必要があるが、現時点では庁内のコンセンサスを図る必要性が高い。
岐阜県高山市	○8つのテーマで、文化財のグルーピングを行っている。	○400年受け継いできた「飛騨高山の伝統的な街並みと、高山祭の屋台祭礼」の文化・ストーリーが、変わることなく地域コミュニティの中で受け継がれている。	○海外向けにあっては、「海外戦略室」を設置して、海外向けの情報発信等を行っている。	○副読本の作成や各学校に出向き出前講座、体験事業などを行っている。 ○「おもてなし文化振興」として、飛騨高山に伝わるおもてなし文化やお座敷での伝統芸能の専門的知識や技術の修得支援、及び後継者育成支援等によりおもてなし文化の保存と伝承を図っている。	○観光客数500万人（内、外国人旅行者は30万人）を目標に、受入環境整備（駐車場、休憩所、便益、市内交通手段、サイン・案内板等）を進めている。 ○平成23年に城下町高山の歴史文化を学ぶことができる展示施設オープンした。	○「歴史的風致維持向上計画」の策定にあたり、まちづくり部局と連携して取組を推進してきた。また、昨年度の同計画の見直しにあっては、商工観光、農林部局との連携も図りながら進めている。

地域	文化財のパッケージ化	ストーリーの有無と地域への定着	情報発信	人材育成・普及啓発・継承	環境整備	その他
岩手県遠野市	○条例にて「遠野物語」にまつわる文化財等を「遠野遺産」として認定し、パッケージ化している。	○遠野物語の各々の説話自体がストーリーとなり、市民の精神に根付いている。 ○遠野遺産には明確なストーリーはないが、地域の人々が大切にしている「たからもの」が認定されている。	○遠野物語は、市、観光協会、観光事業者それぞれが観光PRを行っている。 ○遠野遺産は毎年ガイドブックが作られ市内外に配布されている。	○遠野物語に関するフォーラムを開催。 ○遠野遺産の制度そのものが継承事業となっている。 ○遠野「語り部」1000人プロジェクトの実施。	○遠野遺産認定プレートを設置。 ○遠野遺産の整備、維持・補修、活用に資する補助事業の実施。	○新たに計画づくりや事業推進を行う体制不足（担当2名のみ）。 ○日本遺産事業を目指すにあたっての遠野遺産制度をどのような位置付けとするか検討する必要がある。 ○条例に基づき域内の文化財を把握しているが、申請要件である歴史文化基本構想等は策定していない。
福井県若狭町、小浜市	○歴史文化基本構想及び歴史文化保存活用計画によって社会的に認知されている文化財がパッケージ化されている。 ○小浜市においては、社寺建造物群と文化的景観をパッケージ化している（世界遺産関連）。	○明確なストーリー付けはされていないが、「鯖街道」「御食国」「人物顕彰」といった歴史的特徴がある。 ○景観維持や街並み保存等に関する地域団体の活動も盛んである。	○ホームページ、パンフレット、マップ作成、ケーブルテレビ、語り部等による情報発信を行っている。	○地域レベルでは様々な活動団体による文化財の保護と活用が行われている。 ○シンポジウムの実施。 ○文化財愛護少年団（小浜市）、子ども語り部（若狭町） ○出前講座。	○歴史文化に関するガイドンス施設は十分ある。 ○一部、施設やサインによって景観が阻害されている。 ○舞鶴若狭自動車道や北陸新幹線の開通によってアクセス性は高まる予定。	○若狭町の文化財の多くは区で管理されているため、地域社会の衰退は文化財の管理不足、伝統技術の担い手不足などにつながる。 ○住民の地域に対する誇りが薄らいている。
三重県明和町	○斎宮・斎王に関する文化財をパッケージ化している。	○日本の歴史では稀有な、女性が統治する斎宮をストーリーとして考えている。 ○地域住民へのストーリーの定着を少しずつ進めている。	○伊勢神宮と絡めた「内宮外宮斎宮」というスローガンの設定。 ○「斎宮の日」の制定と「(仮称) 斎王サミット」の開催を予定。 ○ラジオ番組での発信。 ○バス会社や出版社、デザイナー等と連携した情報発信が課題。	○ボランティアガイドへの支援。 ○博物館での勉強会、月に1回の定例会。 ○小学校への出前授業 ○年に3～4回のシンポジウム開催。	○博物館、歴史体験館がある。 ○史跡斎宮跡の保存・復元が行われている。 ○十二単の着付け体験が好評。	○斎宮復元後の収益確保（入場料、食事場所等）が課題である。 ○観光面における伊勢神宮とのつながりの強化が必須。
奈良県高取町	○文化財のパッケージ化は特に行っていない。	○明確なストーリー付けはされていないが「くすりの町」としての歴史的特徴がある。	○くすりの町としての情報発信は不足気味である。 ○既存の取り組みを一度整理する必要がある。	○高取ボランティアガイドの会による町内の観光ガイド、イベントの企画・主催、地域文化財の研究。 ○「くすり」とは直接関係ないが、名物イベントはある。	○ハード整備、サイン整備などは特に行っていない。現在の景観を考慮した必要最低限のサイン整備は必要。	○橿原市、明日香村、高取町で、世界文化遺産登録を目指していたが、財政難のため断念した。

地域	文化財のパッケージ化	ストーリーの有無と地域への定着	情報発信	人材育成・普及啓発・継承	環境整備	その他
奈良県 橿原市 明日香村	○世界遺産候補としてユネスコに推薦された「飛鳥・藤原宮都とその関連資産群」（橿原市、明日香村、桜井市、奈良県が連携）に合わせたパッケージ化が行われている。	○「日本のはじまりの地」として「飛鳥・藤原の宮都」というストーリーと「国を司った女性たち」に関するストーリーがある。 ○明日香村では村民による劇団が活動しているなど、ストーリーが地域に根付いている。	○近隣市町村（橿原市、明日香村、桜井市）が連携した各種パンフレット等による情報発信。 ○タブレット型端末機による各種情報の案内を試験的に行っている。 ○欧州に向けた情報発信（映像・アート展）を検討している。	○劇団「時空」をはじめNP0や地域団体等による様々な活動が行われている。 ○世界遺産登録に向け、明日香村の文化財に関する講演会を県内及び首都圏等で実施。 ○明日香村の歴史、史跡に関するセミナーを定期的に開催。 ○観光ボランティアガイド育成。 ○飛鳥時代のバイブル「飛鳥物語」の発刊を検討中。	○表示サインの設置・充実、植栽、道路案内板設置（4ヶ国語対応、周遊コースを創出）。 ○超小型モビリティ レンタルサービス ○コンピューターグラフィックスによる遺産の展示（取組中）	○体験交流プログラムと民家ステイによる国内教育旅行及びインバウンド事業における地域活性化に取り組む団体「飛鳥ニューツーリズム協議会」がある。 ○橿原市と明日香村で地域の歴史に関するストーリーの認識が異なる。
岡山県備前市	○平成26年3月に「備前市歴史文化基本構想」を策定し、7つのテーマごとにパッケージ化されている。 ○指定・未指定に関わらず「地域文化資源」として整理されている。	○「備前市歴史文化基本構想」で示されている7つのテーマが、ストーリーとして位置づけられている。 ○閑谷学校や備前焼は備前市のみならず岡山県内で浸透しているが、ストーリーとしての定着はこれからの課題である。	○7つのテーマ・ストーリーに関する情報発信は十分とはいえない。 ○「旧閑谷学校」に関してはHP等による情報発信に努めている。 ○その他、閑谷かわら版（概ね月1回）の発行や、閑谷学校研究（年1回発行）の作成などを行っている。	○「旧閑谷学校」体験・研修などを実施しており、参加者は増加傾向。 ○「閑谷学校 あいうえお論語（210円）」を販売しており、観光客に売行きは好調。 ○E L Tの各学校への配置を進めている。 ○ボランティアガイドの高齢化が進み、新たな人材育成が必要。数的にも不足している。	○「旧閑谷学校」では、高校生がボランティアガイドなどを務め、外国人向け（英語）の資料作成やタブレットによる紹介などを行っている。 ○看板等サインの外国語表記は今後の課題である。 ○「旧閑谷学校」へは、公共交通でのアクセスが悪く交通環境の整備が課題であるが、過剰な整備によって本来の世界観が失われることは避けたい。	○個々のテーマは特徴的だが、横に繋ぐストーリーが弱い。 ○教育遺産は他の地域にも多く見られ、差別化が難しい。地域型ではなく、シリアル型として展開することも考えられる。 ○ストーリーが魅力的であるから人が集まり回遊するという視点が必要。 ○旧閑谷学校は地域の誇りとなっているが、その効果（Uターン、新たな取組等）はあまりみられない。
熊本県球磨地域	○4つのテーマ（古社寺、仏教美術、無形の文化、鉄道遺産）が設定されており、それぞれに文化財がパッケージ化されている。	○相良700年の歴史を軸に4つのテーマを設定しているが、対象範囲が幅広く、具体的なストーリーのイメージが明確でない。	○ガイドアプリ（日本語・英語）を開発し配信しており3,000件ダウンロードされている。 ○インバウンド関連の事業を通じて情報発信している。 ○多言語対応型の各種情報発信が課題である。	○熊本県立美術館において人吉球磨の企画展を予定。 ○ボランティアガイド研修を実施。 ○相良三十三観音めぐりツアー、ウォーキングイベントの実施。 ○人吉球磨ツーリズム（グリーンツーリズム）の推進 ○副読本「相良700年 歴史と伝統が息づく人吉市」	○人吉球磨地域の文化観光の拠点として人吉城歴史館を整備。 ○鉄道ミュージアムを建設中。 ○多言語に対応したサイン看板の更新、トイレ・駐車場等の便益施設の整備が課題。 ○ストーリーを演出する滞在プログラムが構築されていない。	○点在する文化遺産をつなぐ装置として現役の鉄道遺産の活用が考えられる。 ○「球磨地域文化財広域連携協議会」を組織し、広域連携による文化財の保護と活用を推進している。 ○人吉市では歴史文化基本構想を策定する予定。 ○球磨工業高校と連携し、域内文化遺産の保存・活用を推進している。

2. 実態調査結果を踏まえた課題の整理

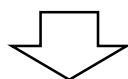
10地域への実態調査の結果を踏まえて、各地域に共通する事象及び他地域にはみられない特徴的な取組や課題等を抽出し、文化財のパッケージ化やストーリー構築等を図る上で重要となる課題について、以下の項目別に整理する。

【課題整理の項目立て】

- (1) 文化財のパッケージ化
- (2) 文化財群を結びつけるストーリーについて
 - ①ストーリーの設定
 - ②ストーリーの定着
- (3) 地域活性化の取組実態と課題
 - ①情報発信
 - ②人材育成・普及啓発・継承事業
 - ③環境整備
- (4) その他

(1) 文化財のパッケージ化について

- 文化財保護法における文化財の定義や指定・未指定に関係なく、地域に根付き大切にされている歴史的・文化的要素を持つ資源を捉えて、パッケージ化している事例がみられる。(遠野市、小浜市・若狭町、備前市、人吉球磨地域)
- 様々な歴史文化を有する場合は、複数のテーマ別に文化財をパッケージ化している事例がみられる。(高山市、小浜市・若狭町、備前市、人吉球磨地域)
- パッケージ化する文化財の数が多い反面、ストーリーとの密接な関係が弱い事例がみられる。(人吉球磨地域)



- 地域に点在する多様な文化財を文化財保護法における指定・未指定に関係なく、地域に根付き大切にされているものをパッケージ化することが望ましい。
- 多様な歴史文化に基づく数多くの文化財を有する場合は、複数のテーマ別にグループを整理するとともに、とりわけストーリーと密接な関係にある文化財については、特別にパッケージ化することが有効である。

（２）文化財群を結びつけるストーリーについて

①ストーリーの設定

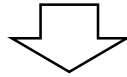
○いずれの地域でも、文化財のパッケージ化とストーリー設定は検討されているが、長い歴史や数多くの文化財を網羅的に取り込む反面、テーマが散在し抽象的な印象となってしまう事例がみられる一方、共通した要素を見出し対外的に分かりやすくインパクトのあるストーリーを構築している事例もある。（共通）

○一方、歴史的経緯からみると複数のストーリーに分類される地域において、かつての国の範囲や街道・路（みち）、山岳・盆地などの地理的要素が複数のストーリーをつなぐキーワードになっている事例がみられる。（総社市、若狭町・小浜市、人吉球磨地域）

②ストーリーの定着

○地域に根付いたストーリーが、伝承や演劇等の形で現代に受け継がれており、それらの活動が地域固有の精神の形成にも寄与している事例がみられる。（遠野市、若狭町、明日香村）

○個別の文化財は地域に認知されているが、ストーリーとしてはこれから地域への定着を図っていく必要性を感じている事例がみられる。（明和町、備前市）

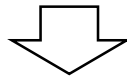


- 長い歴史とともに複数のストーリーが形成されてきた地域においては、その地域の風土や気象条件等の地理的要素を横串としてストーリーを構築することが望ましい。
- 文化財のパッケージ化とストーリー構築には、インパクトと分かりやすさを考慮した設定が必要である。
- 地域に根付いたストーリーを現代に受け継ぐための地域住民の主体的な活動を支援する仕組みが必要である。

(3) 地域活性化の取組実態と課題

①情報発信

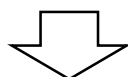
- ホームページやSNSによる情報発信、パンフレット・ガイドブックの作成・配布、ラジオやケーブルテレビを通じた配信、タブレット端末による案内、ガイドアプリの開発・配信、国内外での企画展、記念日の制定など様々な工夫が行われている。(共通)
- 長い歴史や数多くの文化財を網羅的に取り込む反面、テーマが散在し地域固有の歴史や文化財群の魅力が十分に伝わらない事例がみられる。(備前市、人吉球磨地域)
- 国外への効果的な情報発信を行うため、多言語に対応した情報発信の必要性が高まっている。(共通)
- 市役所内に国外向けの情報発信を専属で行う部署を設置しており、また、ミシュラン(ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン)で3つ星観光地として選ばれたことによって外国人観光客が増加している事例がみられる。(高山市)
- 旅行会社やインバウンド事業を通じた情報発信など、文化財のPRに加えて宿泊や飲食、自然環境等の地域資源の要素も取り入れた観光プロモーションとしての国内外への情報発信が進められつつある。(明和町、人吉球磨地域)



- 地域固有の歴史や文化財群の魅力を、如何にわかりやすくインパクトのあるストーリーとして情報発信するかが重要である。
- 国外への効果的な情報発信戦略として、多言語に対応した情報発信ツールの整備、国外への情報発信体制の構築、世界的に認知度の高い観光情報媒体(ミシュラン、トリップアドバイザー等)に認められるような情報発信戦略の構築等を図ることが有効である。
- 文化財のみでなく、宿泊や飲食等も含め総合的な観光プロモーションとして情報発信していくことが有効である。
- 日本遺産を世界に発信していくため、全国の日本遺産の情報や活用事例等を包括的にとりまとめ、我が国の「日本遺産」として束になってアピールする体制づくりが必要となる。

②人材育成・普及啓発・継承事業

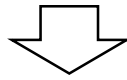
- フォーラムやシンポジウム、語り部、出前授業、セミナー等、地域住民の理解促進や郷土愛の醸成につながる様々な取組が行われている。(共通)
- ボランティアガイドの高齢化等による人材不足が問題視されており、新たなガイド人材の育成が必要とされている。(明和町、橿原市・明日香村、備前市)
- 新たな制度の創設と運用によって、地域住民が主体的に地元の文化財を維持・補修、活用する仕組みを構築している事例がみられる。(遠野市)
- 市民の観光客に対するおもてなしの心が更なる観光客を呼び、誇りに繋がっている事例がみられる。(高山市)



- 文化財の整備・活用にとどまることなく、地域住民の理解促進や郷土愛の醸成につながる様々な取組を総合的に実施することが有効である。
- 地域のストーリーを案内するガイド人材の育成と確保が課題となっている。
- 地域に根付いたストーリーを現代に受け継ぐための地域住民の主体的な活動を支援する仕組みが必要である。(再掲)
- 地域住民一人ひとりが、地域の歴史や文化財に誇りを持ち、観光客に自身を持って紹介する(おもてなし)ことができるような雰囲気づくり、普及啓発を行うことが重要である。
- 行政、専門家(研究者など)、民間(住民、地元企業)が三位一体となった連携・協力体制を構築することに加え、それを俯瞰し、コーディネートする人材の発掘・育成が必要である。

③環境整備

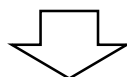
- ほとんどの地域で歴史文化に関する学習や体験、展示を行う拠点施設を有している。
- 案内サイン等への多言語対応や交通環境の整備等が課題とされている一方で、過剰な整備によって文化財群が持っている世界観が損なわれることに対する問題提起もみられる。
- 地域独自のストーリーを体感するための滞在プログラムによって文化財を効果的に活用している事例（来島海峡急流観潮船、十二単の着付け体験、劇団観賞等）がみられる。（今治市、明和町、明日香村）



- 文化財や周辺の環境が有する独自の世界観を保ちつつ、展示・学習・体験等の機能を有する拠点施設や多言語対応型の説明版等の設置など、周辺環境を含めて適切な範囲で一体的に整備することが望ましい。
- 地域独自のストーリーを体感するための滞在プログラムの開発などソフト面での環境整備も必要とされる。

（４）その他

- 文化財の保護だけでなく活用を図っていくにあたっては、活動の担い手や行政職員の人材不足が問題視されている。（遠野市）
- 文化財担当部局のみではなく企画や観光セクションと協働した体制や専属的なセクションを設けている事例もみられる。（高山市、明和町、人吉球磨地域）
- 文化財の保護と活用による地域振興の取組みは各地域で進められつつあるが、それらの情報を共有する場がない。



- 地域の文化財が永く守られていくことが、地域資源として文化財を活用できることにつながるため、全体を捉えた計画・ビジョンが必要である。
- 文化、観光、教育など多岐に渡る日本遺産事業を推進していくにあたって、歴史とストーリーを理解し、専属的に事業を推進するための人材を育成・確保する取組が必要である。
- 日本遺産の事業に取り組む地域が集まり、情報を共有し互いに研磨していくための広域的なネットワークやプラットフォームとなる場が必要である。

IV まとめ

実態調査の結果やそれに基づく文化財のパッケージ化及びストーリー構築等における課題研究の結果を踏まえると、文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組みを効果的に進めていくことが求められる。そこで、各地域の創意工夫によってこれらの取組みを進めるために有効な措置として考えられる「日本遺産（Japan Heritage）」事業について以下のとおりまとめた。

I. 「日本遺産」事業創設の背景

- 我が国の文化財行政は、これまで、文化財保護法に基づき、国宝、重要文化財、史跡名勝天然記念物など文化財の類型ごとに指定等を行うことにより、一定の規制の下、いわば“点”として保存・活用を図ることを中心に展開してきた。
- 一方で、地域における文化財のより効果的な保存・活用を図るためには、文化財をその類型を超えて総合的に把握し、それらを一定のテーマやストーリーの下で捉えることが有効であることから、文化庁においては、市町村による「歴史文化基本構想」の策定を推奨している。しかしながら、平成26年8月現在、同構想の策定済み市町村は全国で38市町村にとどまっているほか、策定済み市町村においても、それらを実際に活用して成果を上げている事例は必ずしも多くないなど、いまだ取組が十分に浸透しているとは言えない状況にある。
- また、近年、世界文化遺産への登録を通じた取組などにも見られるように、地域に所在する文化財について、まちづくりの核としての潜在的な可能性が見出され、これらを積極的に活用することによって地域を活性化する機運の高まりが見られる。
- 我が国には有形・無形の優れた文化財が各地に数多く存在しており、それらにストーリー性などの付加価値を付けつつ魅力を発信する体制を整備するとともに、文化財を核に当該地域（周辺部も含めて）の産業振興・観光振興や人材育成等とも連動して一体的なまちづくり政策を進めることが、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなる。
- 各地方自治体においては、上記のような効果を念頭に文化財を積極的に活用した取組を行っていくことが望まれるが、国においては、そうした意欲的な地方自治体を後押しする施策の実施が必要である。
- そのための有効な方策として、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を総合的に活用する取組を支援する事業を創設することが適当である。

Ⅱ.「日本遺産」事業の方向性

日本遺産事業の設計に先立ち、既に文化財を活用した地域振興を行っている地方自治体の先行事例10件について実態調査を行った。その際得られた課題を踏まえ、文化財を活用・発信して地域の活性化につなげていくために、以下のような方向性が有効と考えられる。

(1) 地域に点在する文化財を把握し、ストーリーによりパッケージ化する

- 地域に点在する多様な文化財を総合的に把握した上で、文化財保護法上の類型や指定の有無にとらわれず一定のストーリーの下にパッケージ化し、文化財群として分野横断的・総合的に捉えることによって、地域の歴史・文化・風土と文化財群との関わりが明確になり、新たな地域の魅力を見いだすことが可能となる。

(2) 地域全体として一体的に整備・活用する

- ストーリーを体感するための展示・学習・体験等の機能の整備や説明板等の設置、ガイド人材の育成・確保など、ハード・ソフトの両面から一体的に整備することによって、ガイダンス機能が強化され、来訪者が文化財と周辺地域との歴史的な関わりをより深く理解することが可能となる。
- また、域内における学校教育や生涯学習において取り上げるなど、地域への理解を深め、郷土愛の育成につながるような、様々な取組を総合的に実施することが有効である。

(3) 国内外へ積極的かつ戦略的・効果的に発信する

- 世界文化遺産に見られる、文化財群へのストーリー性の加味は、世界文化遺産というブランドのインパクトと分かりやすいストーリー性と合わせて、それらが存在する地域そのものへの関心を喚起し、多くの人々が世界文化遺産を訪れる契機ともなっている。
- 歴史的経緯を踏まえたストーリーを構築し、文化財群を通じて地域の魅力や特色を分かりやすく説明することは、地域住民の理解・協力の促進につながるとともに、広く国内外において認識が広がる点で有効である。
- さらに、姉妹都市関係や海外事務所などの既存資源を最大限に活用したり、英語、中国語、韓国語をはじめとして、各地域が必要とする外国語を用いるなど、日本国内のみならず、外国に対しても効果的に発信を行う。

Ⅲ. 事業のスキーム

1. 事業概要

- 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。
- これは、言わば、文化財版の「クールジャパン戦略」とも言うべき施策であり、文化財に対して新たな価値を付与したり規制を課したりするものではない。
- したがって、文化財保護法に基づく新たな「制度」として実施するものではなく、世界文化遺産との間にも上下関係はない（日本遺産としての認定が今後の世界文化遺産推薦の前提となるものではなく、世界文化遺産への道を閉ざすものでもない）。

2. 日本遺産として認定するストーリー

- 日本遺産として認定するストーリーは、以下の点を踏まえた内容とする（文化財そのものを認定の対象とすることはしない）。
 - ・ 歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたものであること。
 - ・ ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものを据えること。
 - ・ 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。
- ストーリーは、その地域の歴史や文化財に関する専門的知識を持たない人にも理解できる説明を心がけ、人々の興味や関心を引き起こすような構成とすることが必要である。
- ストーリーのタイプとしては、単一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」と、複数の市町村にまたがってストーリーが展開する「シリアル型」の2種類とする。

3. ストーリーを語る上で不可欠な文化財群

- 地域に受け継がれている有形・無形のあらゆる文化財を対象とし、地方指定や未指定の文化財も可能とする。
- 日本遺産のストーリーが我が国の文化・伝統を語るものであることから、文化財群の中に国指定・選定のものを必ず一つは含めることとする。
- なお、ストーリーを語る上で不可欠な文化財であるか否かの観点から、対象を十分に精査の上、リストを作成し、一覧に供するものとする。

4. 認定申請の手続き

(1) 申請者

- 日本遺産の申請者は市町村とし、文化庁への申請は都道府県を経由して行うこととする。
- ストーリーが複数の市町村にまたがるシリアル型の場合、原則として市町村の連名で申請を行うこととし、文化庁への申請はその代表となる市町村が所在する都道府県を経由して行うこととする。
なお、都道府県が管下の市町村（申請者）間の連絡調整等を行う場合は、当該都道府県が市町村に代わって申請者となることも可能とする。
- 同一都道府県内で複数の申請がある場合、都道府県において各案件の優先順位を付した上で文化庁へ申請することとする。

(2) 認定申請を行うに当たっての条件

- 認定申請を行うことができるのは、本事業の趣旨・目的にかんがみ、歴史文化基本構想又は歴史的風致維持向上計画を策定済みの市町村、若しくは世界文化遺産の構成資産を有する市町村世界文化遺産暫定一覧表記載・候補案件の構成資産を有する市町村とすることが適当である。
- このような条件をつけるのは、以下の3点の理由による。
 - ・ 既に、域内の文化財を総合的に把握しているなど、ストーリー立てなどの点で日本遺産としてのストーリーを構築しやすい素地があること。
 - ・ 総合的把握がされた文化財の活用のための体制が整っていること。
 - ・ 従来から文化財を大切にしていた地域づくりが行われており、その努力を地域の活性化につなげることが比較的容易であること。
- なお、地域型の申請の場合は上記の条件を必須とするが、シリアル型の申請の場合は、ストーリーがまたがる全ての市町村において上記条件を満たすことが望ましいものの、厳密には求めないこととする。

(3) 認定基準

- 認定基準としては以下のような視点に立って設定する。
 - ① ストーリーの内容が、当該地域の際立った歴史的特徴・特色を示すものであるとともに我が国の魅力を十分に伝えるものとなっていること。
 - ② 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること。
 - ③ ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること。

(4) 認定の可否

- 日本遺産としての認定可否は、文化庁に設置する外部有識者で構成される審査委員会の審査結果を踏まえて、文化庁が決定する。
- 本事業は、未指定も含めた文化財の積極的活用を図ることを意図しているものであり、文化財保護法に基づく制度として実施するものではないため、審査委員会は文化審議会の下には置かない。
- なお、実際に認定を行うに当たっては、地域的バランスやストーリーの多様性等を考慮することが適当である。

(5) 認定件数

- 2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、年間の訪日外国人旅行者数2000万人を達成するという政府方針が示されている。これら旅行者が日本全国を周遊し、地域の活性化に結び付くようにするためには、観光客の受け皿となるべき日本遺産が日本各地にバランス良く存在することが理想的である。
- 一方で日本遺産としてのブランド力を保つためには、認定件数を一定程度限定することが有効と考えられる。
- 以上を踏まえ、日本遺産の認定件数は、2020年までに100件程度とすることが適当である。

5. 地方自治体への財政支援

(1) 国による支援策

日本遺産事業において、国は地方自治体が実施する概ね以下のような取組に対して支援を行う。

① 情報発信・人材育成

- 地方自治体における日本遺産の情報発信の推進と、情報発信を行う人材育成を支援する。
- 具体的には、日本遺産のPRや官民の連携推進等を行う日本遺産コーディネーター（仮称）の配置、日本遺産の多言語によるHPやパンフレットの作成、ボランティア解説員の育成等に対して支援を行う。

② 普及啓発

- 地方自治体が行う発表会、展覧会、ワークショップ、シンポジウムといった普及啓発事業を支援する。
- 具体的には、国内外での日本遺産PRイベントの開催、ご当地検定の実施等に対して支援を行う。

③ 公開活用のための整備

- 自治体が実施する文化財群の公開活用のための整備（ストーリーの理解に有効なガイダンス機能の強化措置）を支援する。

- 具体的には、ガイダンス設備の整備、トイレ・ベンチや説明板等の設置、警報・消火・防犯設備、耐震診断等の防災対策等を支援する。

(2) 支援事業実施にあたっての留意点

- 地方自治体への支援は、日本遺産として認定後、日本遺産を通じて地域の活性化を図る取組に対し、その内容を精査のうえ実施する。
- 地方自治体を実施する取組への支援期間は5年以内とし、期間終了後は当該地域において自立的に活性化の取組を継続する必要がある。
- 本事業の実施に当たっては、市町村の文化財担当部局のみならず、観光、地域振興等の関連部局や、NPO、文化財保存団体、商工会議所、観光業者といった民間団体とも連携・協力するなど、地域全体で実施する体制を整えていることが必要である。
- 地方自治体は、支援事業の実施に当たり、明確な成果目標を設定する。
- 上記の成果目標の達成状況を適切に把握し、更なる改善につなげていくPDCA体制を導入する等、本事業を通じ、確実に地域が自立的に活性化に取り組んでいける仕組みを構築していく。

V 日本遺産検討委員会の運営

1. 委員会の趣旨

日本遺産の定義や文化財群のパッケージ化及びストーリー構築、国内外への情報発信等による地域活性化を推進するための支援の在り方等に関する研究を行うため、有識者等で構成される検討委員会を設置した。

2. 開催概要

(1) 有識者委員

文化財行政、世界遺産、観光振興、まちづくり等、歴史・文化の視点による地域振興に精通する学識経験者等を本委員会の有識者委員として選定した。

【日本遺産検討委員会 委員名簿】

氏名(敬称略・五十音順) ○：座長	所 属
稲葉 信子	筑波大学大学院 教授
○ 桂 雄三	日本ジオパークネットワーク 顧問
佐藤 信	東京大学大学院 教授
下村 彰男	東京大学大学院 教授
丁野 朗	日本観光振興協会常務理事

(2) 開催日時と議題

	開催日時	議題
第1回	平成26年9月1日（木） 13：00～15：00	(1) 「日本遺産」事業について (2) 先行実態調査の結果報告 (3) その他
第2回	平成26年12月1日（月） 16：00～18：00	(1) 実態調査の総括 (2) 「日本遺産」事業について (3) その他
第3回	平成27年2月26日（木） 16：00～18：00	(1) 事業報告書（案）について (2) その他

平成26年度 文化庁委託事業
「日本遺産」調査研究事業 報告書

平成27年3月20日

■委託元

文化庁文化財部記念物課
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3－2－2

■発行

ランドブレイン株式会社
〒102-0093 東京都千代田区平河町 1－2－10 平河町第一生命ビル